SONY

2-598-516-**02**(1)

マルチチャンネル インテグレートアンプ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

TA-DB890

この取扱説明書について

この取扱説明書では、主に本体のボタンを使った操作のしかたを説明しています。
リモコンでの操作について詳しくは、「リモコンを使う」（45ページ）をご覧ください。

本機はドルビー*デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック（**II**、**IIx**）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS**(DTS-ESおよびDTS 96/24)デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、サラウンドEx、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下が米国AACパテントナンバーです。
Pat. 5,848,391；5,291,557；5,451,954；5 400 433；5,222,189；5,357,594；5 752 225；5,394,473；5,583,962；5,274,740；5,633,981；5 297 236；4,914,701；5,235,671；07/640,550；5,579,430；08/678,666；98/03037；97/02875；97/02874；98/03036；5,227,788；5,285,498；5,481,614；5,592,584；5,781,888；08/039,478；08/211,547；5,703,999；08/557,046；08/894,844

**Digital Theater Systems, Incからの実施権に基づき製造されています。DTS、DTS-ES、Neo:6およびDTS 96/24はDigital Theater Systems, Incの商標です。

目次

準備1：お手持ちの機器の接続のしかたを確認する

お手持ちの機器の接続のしかたを、6ページからの準備1a～1cで説明します。はじめに下記の「接続機器一覧」で、それぞれの機器の説明ページをご確認ください。

接続機器一覧

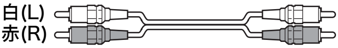
接続機器	ページ
DVDプレーヤー	
デジタル音声出力端子付き[a]	6～8
マルチチャンネル音声出力端子付き[b]	10～11
アナログ音声出力端子のみ[c]	6～8
テレビ	
コンポーネント映像入力端子付き[d]	7～8または11
S映像または映像入力端子のみ	13
BSデジタル/デジタルCS/アナログBSチューナー	
デジタル音声出力端子付き[a]	6～8
アナログ音声出力端子のみ[c]	6～8
スーパーオーディオCD/CDプレーヤー	
デジタル音声出力端子付き[a]	9
マルチチャンネル音声出力端子付き[b]	10
アナログ音声出力端子のみ[c]	12
MD/カセットデッキ	
デジタル音声出力端子付き[a]	9
アナログ音声出力端子のみ[c]	12
レコードプレーヤー	12
チューナー	12
マルチチャンネルデコーダー	10
ビデオデッキ、ビデオカメラ、テレビゲームなど	13
デジタル音声出力端子付き[a]	13
アナログ音声出力端子のみ[c]	13

[a] DIGITAL OPTICAL OUTPUT、DIGITAL COAXIAL OUTPUTなどの端子がある場合。
[b] MULTI CH OUTPUTなどの端子がある場合。接続機器のマルチチャンネルデコーダーでデコードした音声を、本機から出力するときの接続です。
[c] AUDIO OUT L/Rなどの端子のみの場合。
[d] コンポーネント映像（Y, PB/CB/B-Y, PR/CR/R-Y）入力端子、またはD映像（D1、D2、D3、D4いずれかの）入力端子などがある場合。

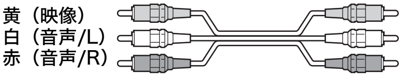
必要な接続コード

次ページからの接続図では、下記の別売りの接続コード（A～I）で説明しています。

A 音声コード



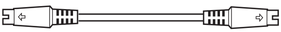
B 映像・音声コード



C 映像コード



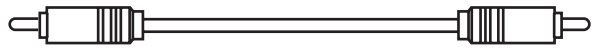
D S映像コード



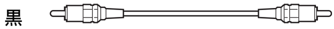
E 光デジタル（OPTICAL）コード



F 同軸デジタル（COAXIAL）コード



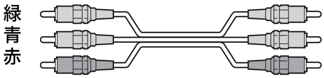
G モノラル音声コード



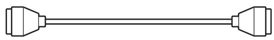
ちょっと一言

A 音声コードを裂いて、G モノラル音声コードの代わりに使うこともできます。

H コンポーネント映像コード



I D映像コード



ご注意

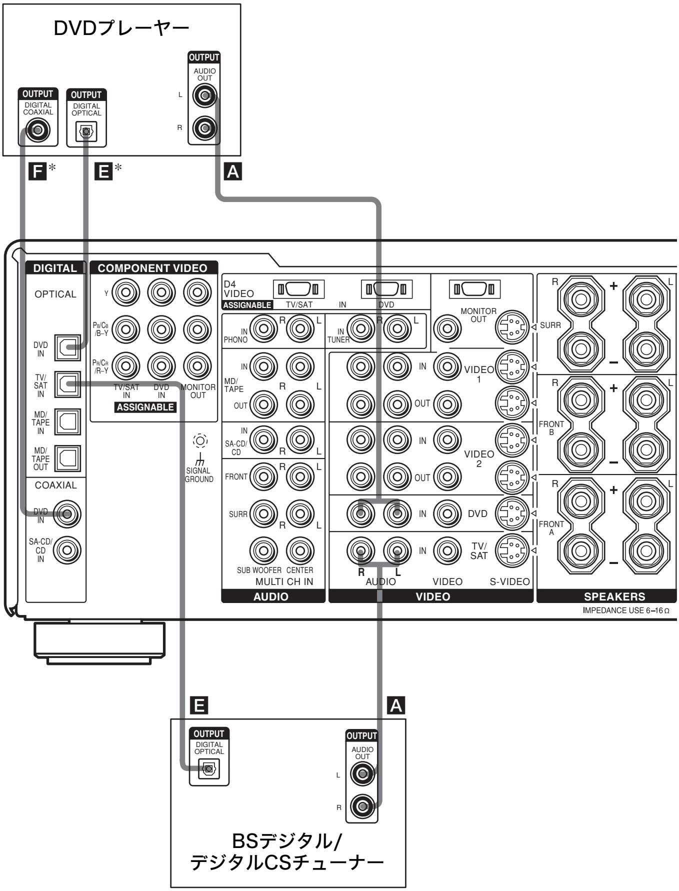
- すべての接続が終わってから、電源コードを接続してください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。雑音の原因となります。
- 映像・音声コードの黄色いプラグはVIDEO IN端子へ、赤いプラグはAUDIO IN R（右）端子へ、白いプラグはAUDIO IN L（左）端子へつなぎます。
- 光デジタルコードを接続するときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタルコードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

準備1a：デジタル音声出力端子のある機器を接続する

DVDプレーヤーやテレビ、BSデジタル/デジタルCSチューナーを接続する

接続コード（A～I）について詳しくは、5ページをご覧ください。

1 音声端子を接続する



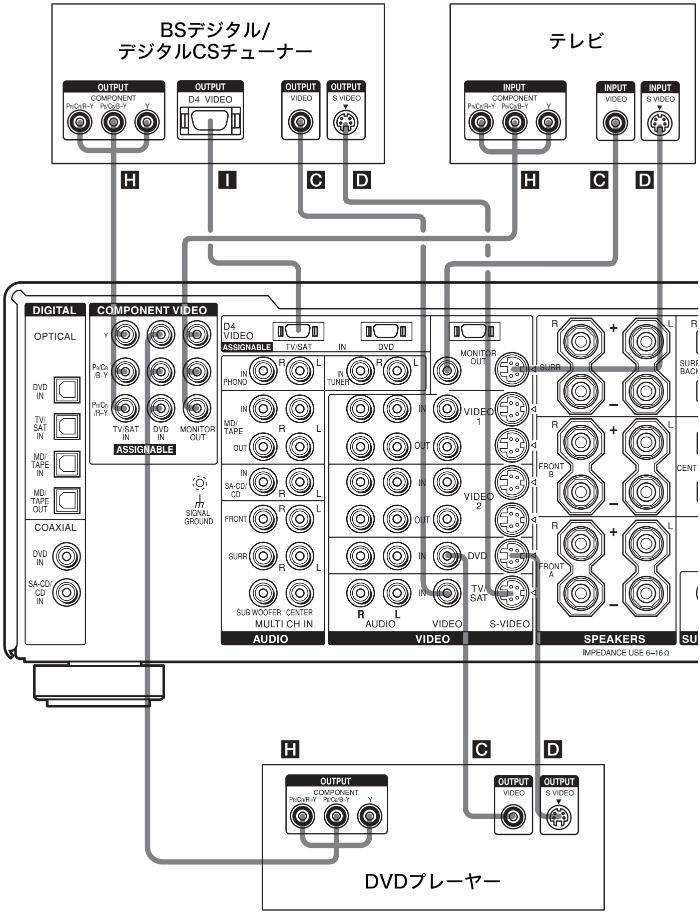
＊本機のDVD COAXIAL IN, SA-CD/CD COAXIAL IN端子またはDVD OPTICAL IN端子のいずれかに接続してください。より良い音質のためにはDVD COAXIAL IN, SA-CD/CD COAXIAL IN端子への接続をおすすめします。

ご注意

テレビの音声出力端子を本機のTV/SAT AUDIO IN端子に接続すると、テレビの音声を本機で聞けます。このとき、テレビの映像出力端子を本機のTV/SAT VIDEO IN端子に接続しないでください。

2 映像端子を接続する

下図は、DVDプレーヤーやBSデジタル/デジタルCSチューナーにコンポーネント映像出力端子（コンポーネント（Y, PB/CB/B-Y, PR/CR/R-Y）映像出力端子、D映像出力端子など）がある場合の接続例です。コンポーネント映像入力端子のあるテレビと接続すると、より高品位な映像をお楽しみいただけます。



ビデオ・アップコンバートについて

再生機器から入力している通常の映像信号（コンポジット映像信号）を、本機内部で変換してS映像信号でテレビに出力できます。ただし、S映像信号から通常の映像信号（コンポジット映像信号）へは変換できません。

ご注意

ビデオデッキなどの通常の映像信号（コンポジット映像信号）またはS映像信号を本機でアップコンバートしてテレビへ出力している場合、映像信号の状態によっては、テレビの映像が横方向にずれたり、映像が出なくなる場合があります。

次のページへ続く

ちょっと一言

- 本機とテレビをコンポーネント映像信号でつなぐ場合は、本機と再生機器もコンポーネント映像信号でつないでください。
- 本機にはS映像信号からコンポーネント映像信号への変換機能はありません。再生機器にコンポーネント映像端子がない場合は、S映像信号で本機とつなぎ、本機とテレビもS映像信号でつないでください。
- 本機は通常の映像信号（コンポジット映像信号）をS映像信号に変換できます。再生機器と本機を通常の映像信号（コンポジット映像信号）でつないだ場合は、S-VIDEO MONITOR OUT端子で映像を見ることができます。このとき、S-VIDEO OUT端子からは変換された映像は出力されないので、録画機器にはVIDEO OUT端子からの通常の映像信号（コンポジット映像信号）もつないでください。

COMPONENT VIDEO端子とD4 VIDEO端子の関係について

COMPONENT VIDEO端子とD4 VIDEO端子は本機内部で並列に接続されているため、次のように使えます。

- COMPONENT VIDEO IN端子に接続した機器の映像は、D4 VIDEO MONITOR OUTとCOMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子から出力します。
- D4 VIDEO IN端子に接続した機器の映像は、D4 VIDEO MONITOR OUTとCOMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子から出力します。

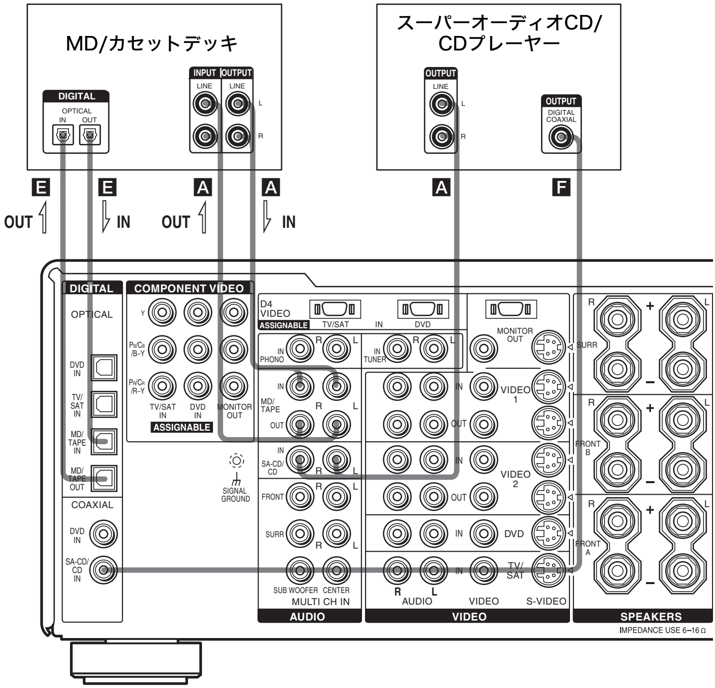
例：DVD COMPONENT VIDEO IN端子に入力したDVDプレーヤーの映像を、D4 VIDEO MONITOR OUT端子に接続したテレビで見られます。本機の入力は「DVD」にします。

ご注意

- 同じ入力（例：DVD）のCOMPONENT VIDEO IN端子とD4 VIDEO IN端子に、同時に接続しないでください。
- テレビを本機のCOMPONENT VIDEO OUT端子とD4 VIDEO OUT端子に同時に接続しないでください。
- テレビの音声出力端子を本機のTV/SAT AUDIO IN端子に接続すると、テレビの音声を本機で聞けます。このとき、テレビの映像出力端子を本機のTV/SAT VIDEO IN端子に接続しないでください。別売りのBSチューナーなどを接続する場合は、接続図（6〜7ページ）のように音声・映像端子ともに本機に接続してください。
- BSデジタルチューナーをTV/SAT D4 VIDEO IN端子に接続したときは、D4 VIDEO MONITOR OUT端子にプログレッシブ信号対応のテレビなどを接続することをおすすめします。COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子につないだときは、プログレッシブ/インターレスなどの画面に関する設定はテレビ側で行ってください。

MD/カセットデッキ、スーパーオーディオCD/CDプレーヤーを接続する

接続コード（A～I）について詳しくは、5ページをご覧ください。



ちょっと一言

本機のDIGITAL音声入力端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHzのサンプリング周波数に対応しています。

ご注意

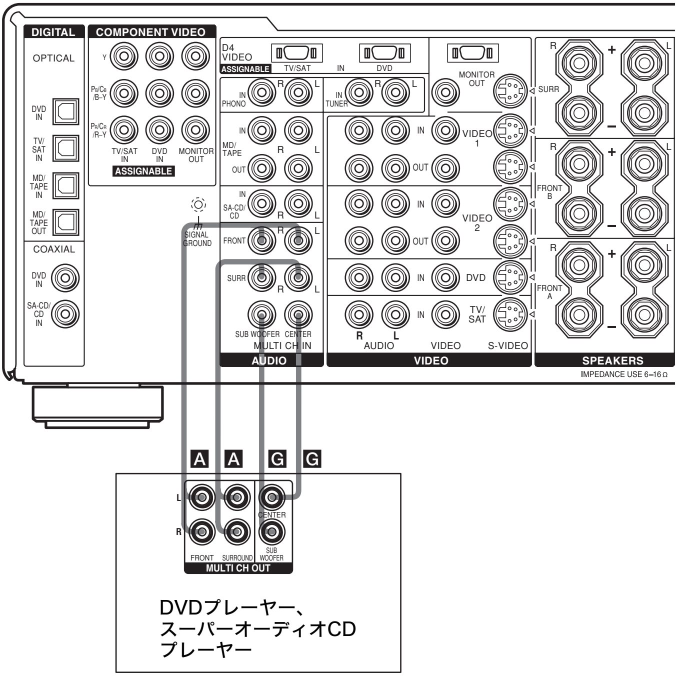
- デジタルのマルチチャンネルサラウンド音声は、デジタル録音できません。
- アナログ録音する場合はアナログ接続、デジタル録音する場合はデジタル接続をしてください。
  本機のMD/TAPE OPTICAL IN端子以外に入力した音声は、MD/TAPE OPTICAL OUT端子からのみデジタル録音できます。MD/TAPE 、VIDEO 1、VIDEO 2のAUDIO OUT (L/R)端子からアナログ録音はできません。
  AUDIO IN (L/R)端子に入力した音声は、AUDIO OUT (L/R)端子からのみアナログ録音できます。MD/TAPE OPTICAL OUT端子からデジタル録音はできません。
- 本機のSA-CD/CD COAXIAL IN端子に接続したスーパーオーディオCDプレーヤーでスーパーオーディオCDを再生しても、信号の種類が異なるため、音声は出力されません。スーパーオーディオCDのディスクを再生するには、必ず本機のSA-CD/CD AUDIO（L/R）IN端子に接続してください。プレーヤーにマルチチャンネル音声出力がある場合は、本機のMULTI CH IN端子とつないでマルチチャンネル音声を聞くこともできます。スーパーオーディオCDプレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

準備1b：マルチチャンネル音声出力端子のある機器を接続する

1 音声端子を接続する

お手持ちのDVDプレーヤーやスーパーオーディオCDプレーヤーにマルチチャンネル音声出力端子がある場合は、本機のMULTI CH IN端子に接続して、マルチチャンネル音声を楽しむことができます。

接続コード（A～I）について詳しくは、5ページをご覧ください。

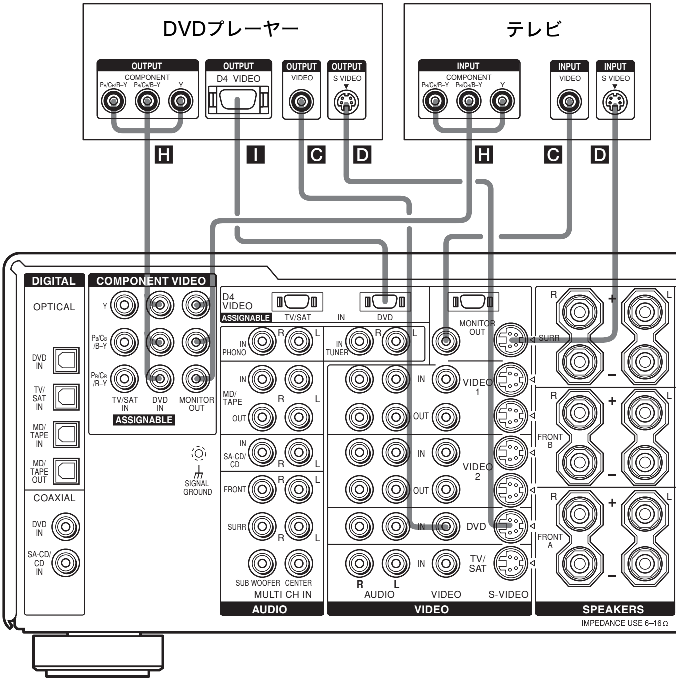


ちょっと一言

この接続をすると、ドルビーデジタル、DTS以外のフォーマットで記録されたマルチチャンネル音声のソフトを楽しむこともできます。

2 映像端子を接続する

下図は、DVDプレーヤーにコンポーネント映像出力端子（コンポーネント（Y, PB/CB/B-Y, PR/CR/R-Y）映像出力端子、D映像出力端子など）がある場合の接続例です。コンポーネント映像入力端子のあるテレビと接続すると、より高品位な映像をお楽しみいただけます。



ビデオ・アップコンバートについて

再生機器から入力している通常の映像信号（コンポジット映像信号）を、本機内部で変換してS映像信号でテレビに出力できます。ただし、S映像信号から通常の映像信号（コンポジット映像信号）へは変換できません。

ご注意

ビデオデッキなどの通常の映像信号（コンポジット映像信号）またはS映像信号を本機でアップコンバートしてテレビへ出力している場合、映像信号の状態によっては、テレビの映像が横方向にずれたり、映像が出なくなる場合があります。

ちょっと一言

- 本機とテレビをコンポーネント映像信号でつなぐ場合は、本機と再生機器もコンポーネント映像信号でつないでください。
- 本機にはS映像信号からコンポーネント映像信号への変換機能はありません。再生機器にコンポーネント映像端子がない場合は、S映像信号で本機とつなぎ、本機とテレビもS映像信号でつないでください。
- 本機は通常の映像信号（コンポジット映像信号）をS映像信号に変換できます。再生機器と本機を通常の映像信号（コンポジット映像信号）でつないだ場合は、S-VIDEO MONITOR OUT端子で映像を見ることができます。このとき、S-VIDEO OUT端子からは変換された映像は出力されないので、録画機器にはVIDEO OUT端子からの通常の映像信号（コンポジット映像信号）もつないでください。

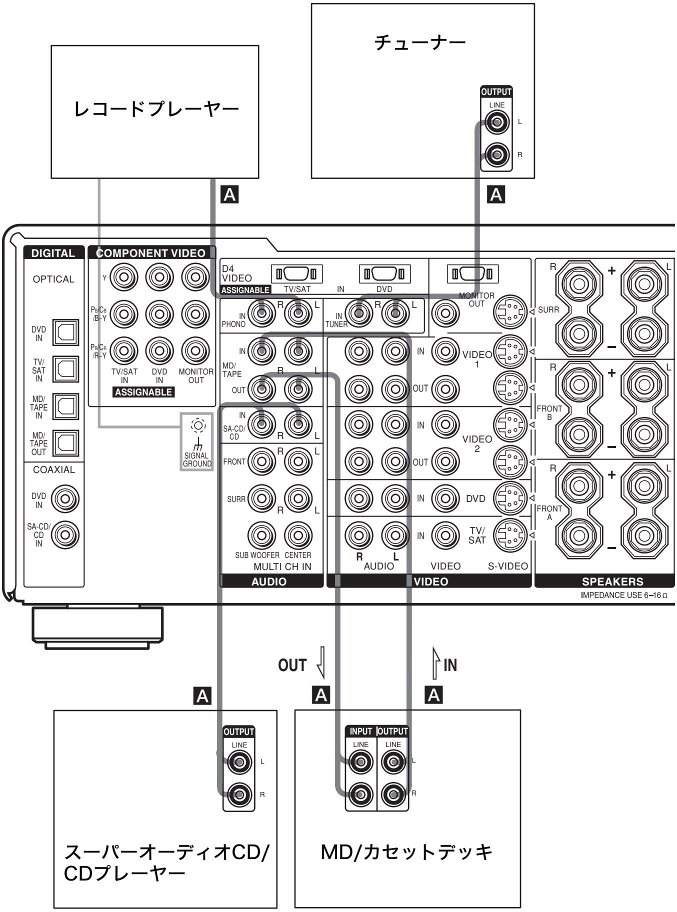
COMPONENT VIDEO端子とD4 VIDEO端子の関係について

8ページをご覧ください。

準備1c：アナログ音声出力端子のみの機器を接続する

オーディオ機器を接続する

接続コード（A～I）について詳しくは、5ページをご覧ください。

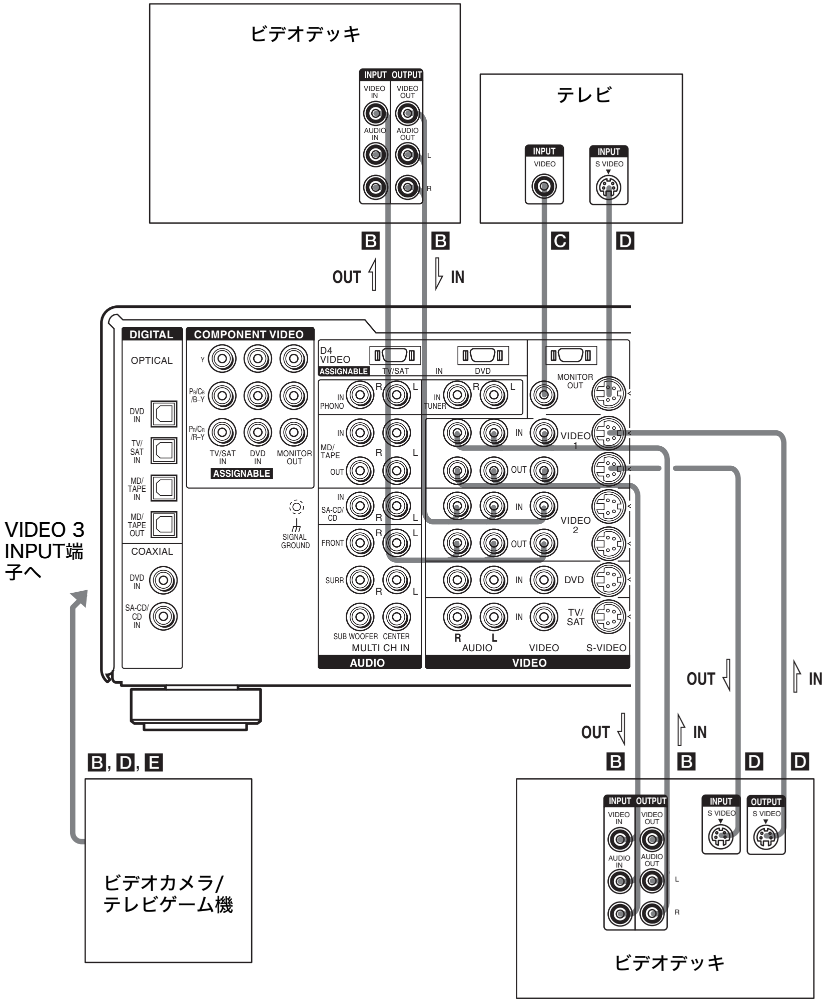


ご注意

お手持ちのレコードプレーヤーにアース線が付いているときは、ハム音を防ぐために、アース線を本機の⏚ SIGNAL GROUND 端子につないでください。

映像機器を接続する

お手持ちのテレビをMONITOR端子に接続すると、選んだ入力の映像を見ることができます（23ページ）。接続コード（A～I）について詳しくは、5ページをご覧ください。



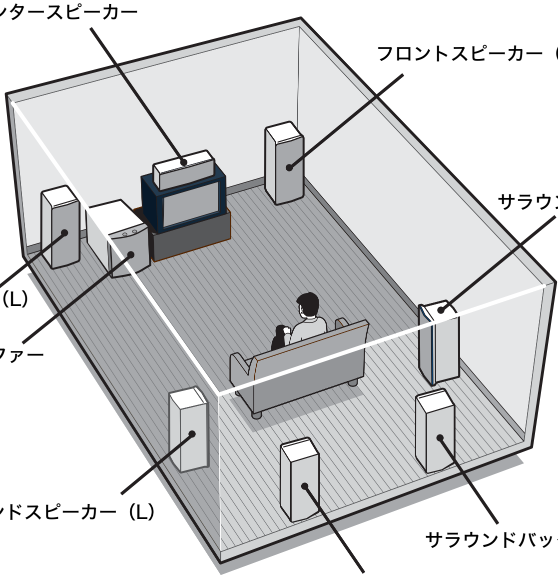
ちょっと一言

- 本機とテレビをコンポーネント映像信号でつなぐ場合は、本機と再生機器もコンポーネント映像信号でつないでください。
- 本機にはS映像信号からコンポーネント映像信号への変換機能はありません。再生機器にコンポーネント映像端子がない場合は、S映像信号で本機とつなぎ、本機とテレビもS映像信号でつないでください。
- 本機は通常の映像信号をS映像信号に変換できます。再生機器と本機を通常の映像信号でつないだ場合は、S-VIDEO MONITOR OUT端子で映像を見ることができます。このとき、S-VIDEO OUT端子からは変換された映像は出力されないので、録画機器にはVIDEO OUT端子からの通常の映像信号もつないでください。

準備2：スピーカーを接続する

お手持ちのスピーカーを本機に接続します。最大7.1チャンネルのスピーカーシステムを構成できます。
映画館のようなマルチチャンネルサラウンド音声を充分にお楽しみいただくには、5本のスピーカー（フロントスピーカー：2本、センタースピーカー：1本、サラウンドスピーカー：2本）とサブウーファーが必要です（5.1チャンネル）。
さらに、サラウンドバックスピーカーを1本（6.1チャンネル）または2本（7.1チャンネル）接続することによって、サラウンドEXフォーマットのDVDソフトを忠実に再現できるようになります（「サラウンドバックデコーディング機能を使う （SB DECODING）」（31ページ））。

7.1チャンネルスピーカーシステムの設置例



ちょっと一言

- 6.1チャンネルのスピーカーシステムを構成する場合は、サラウンドバックスピーカーをリスニングポジションの真後ろに配置します。
- サブウーファーには指向性がありませんので、お好みの場所に設置できます。

スピーカーインピーダンスについて

マルチチャンネルサラウンドを快適にお楽しみいただくため、本機のFRONT A/BおよびCENTER、SURR、SURR BACK端子には公称インピーダンスが6 Ωまたはそれ以上のスピーカーを接続してください。お使いのスピーカーのインピーダンスが不明のときは、スピーカーの取扱説明書をご覧ください（通常、スピーカー後面にはインピーダンスが表示されています）。

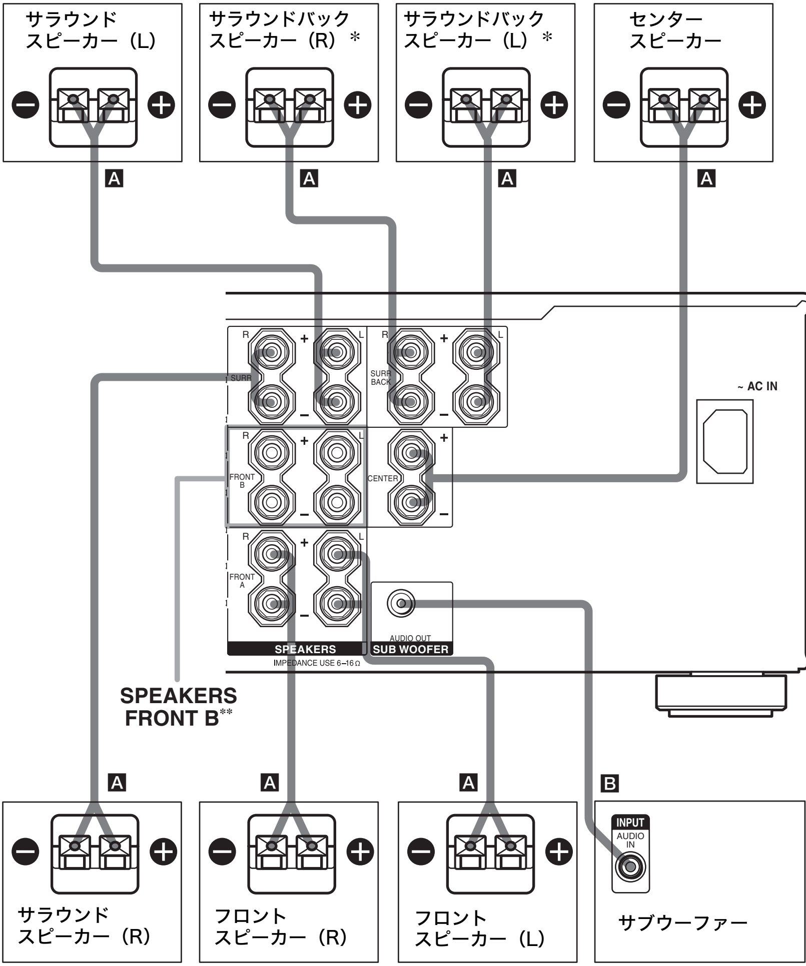
必要な接続コード

A スピーカーコード（別売り）



B モノラル音声コード（別売り）





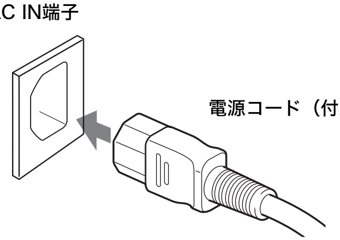
＊サラウンドバックスピーカーを1本のみ使用するときは、SPEAKERS SURR BACK L端子に接続してください。

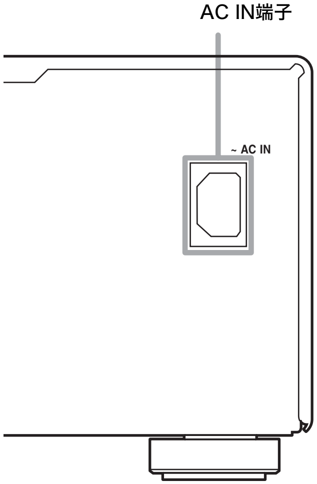
＊＊使用するフロントスピーカーを本機前面のSPEAKERS（OFF/A/B/A+B）で選べます。詳しくは、「使用するフロントスピーカーを選ぶ」（43ページ）をご覧ください。

準備3：本機とリモコンの準備をする

電源コードを接続する

付属の電源コードを本機後面のAC IN（100V）端子に接続し、電源コードのプラグを壁のコンセントに接続します。

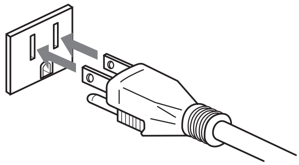




電源コードについて

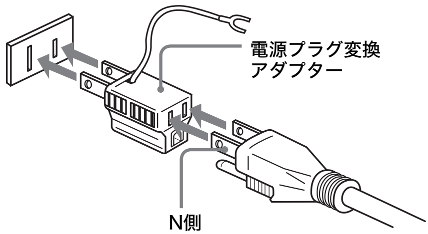
本機の電源コードは、3極プラグになっています。コンセントが2極の場合、付属の電源プラグ変換アダプターをお使いください。

3極コンセントの場合



2極コンセントの場合

- **コンセントの差し込み口に長短の違いがある場合：**



- **コンセントの差し込み口が同じ長さの場合：**

  市販の検電ドライバーなどを使って差し込み穴の極性をチェックできます。検電ドライバーを差し込んでネオンランプが点灯しない方がアース側です。上の図の「N側」のブレードをアース側に差し込みます。

本機を初めてお使いになるときは（本機を初期設定状態にする）

本機を初めてお使いになるときは、必ず以下の手順で本機を初期設定状態にしてください。
また、本機をお使いになった後、設定した内容などをお買い上げ時の状態に戻したいときも、以下の手順を行ってください。

1 **I/⏻（電源スイッチ）を押して、本機の電源を切る**

2 **I/⏻（電源スイッチ）を5秒間押し続ける**

表示窓に「PUSH」と「ENTER」が交互に表示されます。

3 **ENTERを押す**

表示窓に「CLEARING」と表示されます。しばらくすると「CLEARED」と表示され、下記の設定がお買い上げ時の状態に戻ります。

- SP SETUP、LEVEL、EQ、CUSTOMの各メニューで設定した内容
- 入力ごとに記憶したサウンドフィールド
- すべてのサウンドフィールドの設定内容
- 入力に付けた名前
- MASTER VOLUME －/＋の設定は「－∞ dB」に戻ります。
- INPUT SELECTORの設定は「DVD」に戻ります。

本体とリモコンのコマンドモードを合わせる

本体とリモコンのコマンドモードが異なっていると、リモコンで本体を操作することができません。お使いの本体に合わせて、リモコンのコマンドモードをAV1またはAV2に設定します。

リモコンのコマンドモードを切り換えるには

RM SET UPを押しながら、AV1またはAV2を押します。
AV1を選んだときは1回、AV2を選んだときは2回、RM SET UPが点滅し、コマンドモードが切り換わります。

リモコンのモードを確認するには

RM SET UPを押します。
コマンドモードがAV1のときは1回、AV2のときは2回、RM SET UPが点滅します。

ちょっと一言

RM SET UPは先の細いもので1秒以上押してください。

本体のコマンドモードを切り換えるには

本体のコマンドモードはAV2に設定されていますが、切り換えることもできます。
INPUT MODEを押しながらI/⏻を押します。
押すたびに「C.MODE.AV1」と「C.MODE.AV2」が切り換わります。

準備4：スピーカー設定をする

SP SETUPメニューを使って、本機に接続して使用するスピーカーと、その大きさ、距離などを設定してください。

1 I/⏻（電源スイッチ）を押して、本機の電源を入れる

2 MAIN MENUをくり返し押して、「SP SETUP」を選ぶ

3 MENUつまみを回して、設定したい項目を選ぶ

詳しくは、以下の「スピーカーの設定項目」をご覧ください。

ご注意

スピーカーの設定内容が暗く表示されることがあります。これは、他のスピーカーの設定によって、自動的に変更されたことを意味します。設定内容によっては調節できることもありますが、調節できないこともあります。

4 −/+つまみを回して、パラメーターを選ぶ

選んだパラメーターは自動的に確定されます。

ご注意

「SP PAT. X-X」を選んだ場合は、ENTERを押してください。

5 手順3と4をくり返し、すべての項目を設定する

スピーカーの設定項目

お買い上げ時は、下線のパラメーターに設定されています。

■XXXX SET（スピーカー簡単設定）

- <u>EASY SET</u>
  スピーカーの設定を簡単に行えます。付属の「接続ガイド」を使って、あらかじめ用意されたスピーカー設定パターンを選ぶときに選びます。
- NORM. SET
  個々のスピーカーの設定を自分で行うときに選びます。

■SP PAT. X-X（スピーカー設定パターン）

EASY SETを選んだとき、スピーカー設定パターンを設定します。−/+つまみでスピーカー設定パターンを選び、ENTERを押して決定します。スピーカー設定パターンは、付属の「接続ガイド」で確認してください。

■ SW S.W. XXX（サブウーファー）

- <u>YES</u>
  サブウーファーを接続した場合に選びます。
- NO
  サブウーファーを接続しない場合に選びます。フロントスピーカーは自動的に「LARGE」に設定されます。低域変換機能が働き、LFE（低音増強）信号が他のスピーカーから再生されます。

ちょっと一言

ドルビーデジタルの低域変換機能を充分にお楽しみいただくために、サブウーファーのカットオフ周波数をできるだけ高く設定することをおすすめします。

■ L R XXXXX（フロントスピーカー）

- <u>LARGE</u>
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーを接続した場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。

- SMALL
  「LARGE」にすると音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。フロントスピーカーの低域成分は、サブウーファーから再生されます。「SMALL」を選ぶと、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーの設定も自動的に「SMALL」になります（「NO」に設定されている場合を除く）。

■ [C] XXXXX（センタースピーカー）

- LARGE
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーを接続した場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。フロントスピーカーを「SMALL」に設定しているときは選べません。
- SMALL
  「LARGE」にすると音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。センタースピーカーの低域成分は、フロントスピーカー（「LARGE」に設定されている場合）またはサブウーファーから再生されます。
- NOまたはMIX
  センタースピーカーを接続しない場合に選びます。センタースピーカーの音はフロントスピーカーから出力されます（デジタルダウンミックス機能）。「MIX」に設定した場合、フロントスピーカーとサラウンドスピーカーの設定が「LARGE」であれば、センタースピーカーの音はアナログ回路で処理されフロントスピーカーから出力されます。デジタルで処理するよりも、音質的に優れた機能です（アナログダウンミックス機能）。
  入力がマルチチャンネル音声のときは、「NO」または「MIX」のいずれの場合でもアナログダウンミックス機能が働きます。

■ [SL] [SR] XXXXX（サラウンドスピーカー）

- LARGE
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーを接続した場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。フロントスピーカーを「SMALL」に設定しているときは選べません。
- SMALL
  「LARGE」にすると音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。
  サラウンドスピーカーの低域成分は、サブウーファーまたは「LARGE」に設定した他のスピーカーから再生されます。
  「SMALL」を選ぶとサラウンドバックスピーカーの設定も自動的に「SMALL」になります。
- NO
  サラウンドスピーカーを接続しない場合に選びます。「NO」を選ぶと、サラウンドバックスピーカーの設定も自動的に「NO」になります。

■ [SBL] [SBR] / [SB] XXXXXX
（サラウンドバックスピーカー）

- DUAL
  サラウンドバックスピーカーを2台接続した場合に選びます。音声を最大7.1チャンネルで出力します。
- SINGLE
  サラウンドバックスピーカーを1台だけ接続した場合に選びます。音声を最大6.1チャンネルで出力します。
- NO
  サラウンドバックスピーカーを接続しない場合に選びます。

ご注意

サラウンドスピーカーを「NO」に設定しているときは、サラウンドバックスピーカーも自動的に「NO」になり、設定を変えることはできません。

次のページへ続く

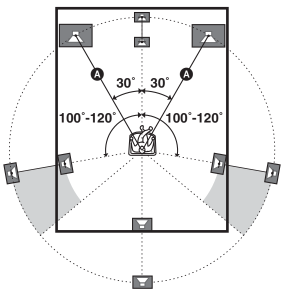
ちょっと一言

各スピーカーの「LARGE」、「SMALL」の違いは、「そのスピーカーの低音をカットするかしないか」です。「SMALL」でカットされた低音は、「LARGE」と設定した他のスピーカーまたはサブウーファーの低域に回されます。
しかし、できれば低域はカットしたくないものです。したがって、どんなに小型のスピーカーでも、低音を再生させたい場合は「LARGE」に設定します。逆に大型のスピーカーでも、低音を再生させたくない場合は「SMALL」に設定します。
全体の音量が小さい場合はすべてのスピーカーを「LARGE」に設定し、低音感が足りない場合は、イコライザーで低域を上げることをおすすめします。イコライザーの設定については37ページをご覧ください。

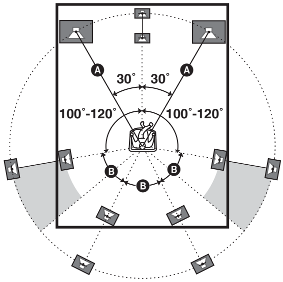
■ L R DIST. X.X m（フロントスピーカーまでの距離）

お買い上げ時の設定：3.0 m
リスニングポジションから左右のフロントスピーカーまでの距離（A）を設定します。
1.0～7.0mの範囲で、0.1 m単位で設定できます。
左右のフロントスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

サラウンドスピーカーを1つだけ設置した場合



サラウンドスピーカーを2つ設置した場合
（Bの角度は同じにする）



■ C DIST. X.X m（センタースピーカーまでの距離）

お買い上げ時の設定：3.0 m
リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離を設定します。1.0～7.0mの範囲で、0.1 m単位で設定できます。

■ SL SR DIST. X.X m（サラウンドスピーカーまでの距離）

お買い上げ時の設定：3.0 m
リスニングポジションから左右のサラウンドスピーカーまでの距離を設定します。
1.0～7.0mの範囲で、0.1 m単位で設定できます。
左右のサラウンドスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

■ SBL SBR / SB DIST. X.X m（サラウンドバックスピーカーまでの距離）

お買い上げ時の設定：3.0 m
リスニングポジションからサラウンドバックスピーカーまでの距離を設定します。1.0～7.0mの範囲で、0.1 m単位で設定できます。
サラウンドバックスピーカーを2台接続しているとき、左右のサラウンドバックスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

ちょっと一言

センタースピーカーはフロントスピーカーより遠くには設定できません。また、フロントスピーカーより1.5 m以上近くにも設定できません。
サラウンド音声用のサラウンドスピーカーやサラウンドバックスピーカーも、フロントスピーカーより遠くには設定できません。また、フロントスピーカーより4.5 m以上近くにも設定できません。
これらは、スピーカーの配置を適切に行い、より良い音で楽しんでいただくために設けた制限です。
使いこなしのヒントとして、実際の距離より近くスピーカーの位置を設定すると、音が出るタイミングが遅くなり、スピーカーが遠くにあるように感じられます。
例えば、センタースピーカーを実際の距離より1〜2 m短く設定すると、うまく画面の中にはまった感じがすることがあります。サラウンドスピーカーの距離が近いために、サラウンド感が不足するときは、サラウンドスピーカーの距離を実際の距離より短く設定すると、音場感を高められることがあります。
実際に音を聞きながら設定を変えてみると、サラウンド感が良くなることがありますので、お試しください。

すすんだスピーカー設定をするには

CUSTOMメニューで「MENU XXX」を「MENU EXP.」にすることによって、サラウンドスピーカーの位置や高さなど、すすんだ設定ができるようになります。
「MENU XXX」について詳しくは38ページを、設定できる項目について詳しくは39ページをご覧ください。

準備5：スピーカーのレベルとバランスを調節する

（テストトーン）

リスニングポジションに座り、テストトーンの出力を聞きながらスピーカーのレベルとバランスを調節してください。この操作はリモコンで行います。

ちょっと一言

本機は中心周波数800 Hzのテストトーンを採用しています。

1 リモコンの I/⏻（電源スイッチ）を押して、本機の電源を入れる

2 リモコンのTEST TONEを押す

本機の表示窓に「AUTO L」が表示され、各スピーカーから下記の順番にテストトーンが出力されます。
L（フロントスピーカー左）→C（センタースピーカー）→R（フロントスピーカー右）→SR（サラウンドスピーカー右）→SBR（サラウンドバックスピーカー右）*→SBL（サラウンドバックスピーカー左）*→SL（サラウンドスピーカー左）→SW（サブウーファー）

*サラウンドバックスピーカーを「DUAL」に設定しているときは、左右のサラウンドバックスピーカーから順にテストトーンが出力されます。また、「SINGLE」に設定しているときは、左のサラウンドバックスピーカーからだけテストトーンが出力され、表示窓に「AUTO SB」と表示されます。

次のページへ続く

3 すべてのスピーカーのテストトーンが同じ音量に聞こえるように、LEVELメニューを使って各スピーカーのレベルとバランスを調節する

LEVELメニューの設定のしかたについて詳しくは、35ページをご覧ください。

ちょっと一言

すべてのスピーカーの音量を一度に調節したいときは、リモコンのMASTER VOL +/–または本体のMASTER VOLUME −/＋つまみで調節します。

4 調節が終わったら、もう一度リモコンのTEST TONEを押す

テストトーンが消えます。

テストトーンを出力するスピーカーを固定するには

LEVELメニューで、「T. TONE」を「FIX」に設定する（36ページ）。選んだスピーカーからのみ、テストトーンが出力されます。

さらに細かい調節を行うには

隣り合う2個のスピーカーからテストトーンや音源を出力して、バランスやレベルを調節できます。CUSTOMメニューで、「MENU XXX」を「MENU EXP.」に設定し（38ページ）、続けてLEVELメニューの「P. NOISE」または「P. AUDIO」で、調節したい2個のスピーカーを選びます（41ページ）。

ご注意

- アナログダイレクト時、およびマルチチャンネルダイレクト時は、テストトーンは使用できません。
- スピーカーのレベルとバランスの調節は本体を使ってもできますが、リスニングポジションからリモコンを使って調節することをおすすめします。

入力を切り換える

1 機器の電源を入れる

2 I/⏻（電源スイッチ）を押して、本機の電源を入れる

3 INPUT SELECTORつまみを回して、入力を切り換える

選んだ入力が本機の表示窓に表示されます。

見たい、聞きたい機器	入力
ビデオデッキ	VIDEO 1または VIDEO 2
ビデオカメラ、ビデオゲーム機	VIDEO 3
DVDプレーヤー	DVD
BS/CSチューナー	TV/SAT
MD/カセットデッキ	MD/TAPE
スーパーオーディオCD/CDプレーヤー	SA-CD/CD
ラジオ	TUNER
レコードプレーヤー	PHONO

ご注意

映像機器を選んだ場合は、テレビの入力をアンプ（本機）に合わせてください。

4 機器を再生する

5 MASTER VOLUME −/＋つまみを回して、音量を調節する

ご注意

スピーカーの損傷を避けるために、本機の電源を切るときは、切る前に音量を下げてください。

音を一時的に消したいときは

リモコンのMUTINGを押す。

ミューティング機能は以下の操作をした場合、解除されます。

- リモコンのMUTINGをもう一度押す
- 電源を切る
- 音量を上げる

マルチチャンネル入力の音声を聞く

（MULTI CH IN）

本機のMULTI CH IN端子に接続した機器の音声を直接選べます。DVDやスーパーオーディオCDなどの高品質の音声を楽しむことができます。39ページの「D.PWR」もあわせてご覧ください。
この機能を使っているときは、サラウンド効果は働きません。

MULTI CH INを押す

解除するにはもう一度押します。

センタースピーカーやサブウーファーを接続していないときは

SP SETUPメニューでセンタースピーカーの設定を「NO」または「MIX」に設定し、サブウーファーの設定を「NO」に設定にしているときに（18ページ）、MULTI CH IN機能を使うと、それぞれの音声信号はフロントL/Rスピーカーから出力されます。

ヘッドホンを使うときのご注意

ヘッドホンをつないでMULTI CH IN機能を選んだとき、スピーカーの設定によっては、すべての音声は出力されない場合があります。

表示窓の表示を切り換える

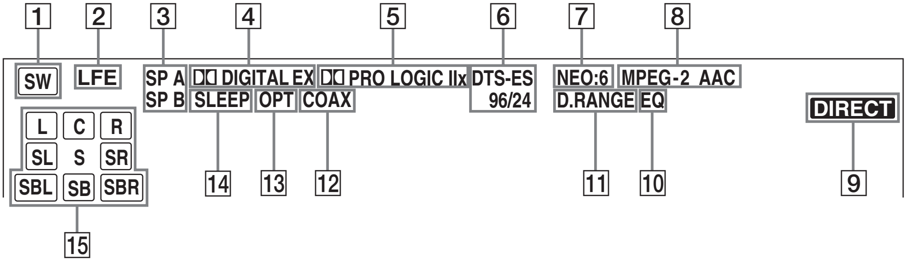
表示窓の表示を切り換えて、音量やサウンドフィールドなどを確認できます。

DISPLAYをくり返し押す

DISPLAYを押すごとに、表示が次のように切り換わります。
登録した名前*→入力名
→サウンドフィールド名→音量

* 入力に名前を付けているときのみ表示されます。すべてスペースが入力されていたり、入力名と同じ名前が付けられている場合は名前は表示されません。

表示窓に点灯する項目について



1 SW

サブウーファーの設定が「YES」になっているとき（18ページ）に点灯します。ディスクに記録されているLFE信号をそのまま出力しているとき、または本機がサブウーファー用の信号を生成しているときに点灯します。2CH STEREOモードが選ばれているときは、消灯します。

2 LFE

再生中のディスクにLFE（低音増強）のチャンネルが存在し、実際にLFE信号の音が再生されているときに点灯します。

3 SP A/SP B

使っているフロントスピーカーシステム（AまたはB）にあわせて点灯します。
ヘッドホンがつながれているときは消灯します。

4 DDDIGITAL EX

ドルビーデジタル信号が入力されたときに「DDDIGITAL」が点灯します。ドルビーデジタルEX信号とDTS-ES信号の場合は、EXデコードしているときに「EX」も点灯します。

ご注意

ドルビーデジタルディスクを再生するときは、デジタル接続をして、INPUT MODEを「ANOLOG」以外に設定してください（35ページ）。

5 DDPRO LOGIC IIx

2チャンネル信号をプロロジック処理し、センターやサラウンドチャンネルの信号を出力しているときに点灯します。また、プロロジックIIまたはIIxのムービー / ミュージック/ゲームモード処理を行っているときにも点灯します。ただし、センタースピーカーとサラウンドスピーカーの両方が「NO」と設定されていて、A.F.D.ボタンでサラウンドフィールドを選んだときは点灯しません。

ご注意

DTS信号とサンプリング周波数が48 kHzより高い信号はドルビープロロジックIIx処理ができません。

6 DTS-ES 96/24

DTS信号が入力されたときに「DTS」が点灯します。
DTS-ES信号の場合は、ESデコードしているときに「-ES」も点灯します。
DTS 96kHz/24 bit信号をデコードしている場合は、「96/24」も点灯します。

ご注意

DTSフォーマットのディスクを再生する場合は、デジタル接続をして、INPUT MODEを「ANALOG」以外に設定してください（35ページ）。

7 NEO:6

DTS Neo: 6のシネマ/ミュージックモード処理を行っているときに点灯します。

次のページへ続く

8 MPEG-2 AAC

MPEG-2 AAC信号が入力されたときに点灯します。

ご注意

MPEG-2 AACに関しては、アルゴリズム：(LC（Low Complexity))にのみ対応しています。

9 DIRECT

ANALOG DIRECTが働いているときに点灯します。

10 EQ

イコライザーが働いているときに点灯します。

11 D.RANGE

ダイナミックレンジの圧縮が働いているときに点灯します。詳しくは41ページをご覧ください。

12 COAX

デジタル信号がCOAXIAL端子から入力されたときに点灯します。

13 OPT

デジタル信号がOPTICAL端子から入力されたときに点灯します。

14 SLEEP

スリープタイマーが働いているときに点灯します。

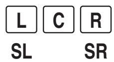
15 再生チャンネル表示

現在本機が出力しているチャンネルを表示します。文字が点灯し、再生に使われているスピーカーを表示します。

文字（L、C、R・・・）はソース音源を、文字の周りの枠は、ソース音源が、スピーカーセッティングに基づくダウンミックス処理で、どのチャンネルに集約されるのかを示します。

L: フロント左
R: フロント右
C: センター（モノラル）
SL: サラウンド左
SR: サラウンド右
S: サラウンド（モノラル/プロロジック処理されたサラウンド成分）
SB: サラウンドバック（6.1チャンネル処理されたサラウンドバック成分）
SBL: サラウンドバック左
SBR: サラウンドバック右

例：
記録形式（フロント/サラウンド）：3/2
再生チャンネル：
サラウンドスピーカーなし
サウンドフィールド：A.F.D. AUTO



フロントスピーカーのみから音を出す

(2CH STEREO)

フロントL/Rの2本のスピーカーのみから音を出します。サブウーファーからは、音が出ません。

2チャンネルステレオ音声を聞く（2CH STEREO）

標準的な2チャンネルステレオ音声は、サウンドフィールドの回路を通さずに、マルチチャンネル音声は2チャンネルにダウンミックスして再生します。

2CHを押す

表示窓に「2CH ST.」と表示され、2CH STEREOモードになります。

ご注意

2CH STEREOモードでは、サブウーファーから音が出ません。フロントL/Rスピーカーとサブウーファーを使って2チャンネルステレオ音声を再生するには、A.F.D.モードを選んで、「A.F.D. AUTO」を選んでください。

アナログ音声を聞く（ANALOG DIRECT）

選んでいる入力の音声を、2チャンネルのアナログ入力に切り換えます。高品質のアナログ音声を楽しむことができます。39ページの「D.PWR」もあわせてご覧ください。
この機能を使っているときは、音量とフロントスピーカーのバランスのみ調節できます。

1 INPUT SELECTORつまみを回して、アナログ音声を聞きたい入力を選ぶ

2 DIRECTを押す

表示窓に「A. DIRECT」と表示され、アナログ音声が出力されます。
ANALOG DIRECT機能を解除するには、もう一度DIRECTを押します。

ご注意

- サウンドフィールド（29〜31ページ）を切り換えると、この機能は解除されます。
- アナログダイレクト時は、テストトーンは使用できません。

より原音に忠実な音で聞く

(AUTO FORMAT DIRECT)

A.F.D.（オートフォーマットダイレクト）モードを使って、お好みのデコーディングモードを選びます。

A.F.D.モード（表示）	デコーディングモード
AUTO（A.F.D. AUTO）	（自動判別）
PRO LOGIC（DOLBY PL）	ドルビープロロジック
PRO LOGIC II MOVIE（PLII MV）	ドルビープロロジックII
PRO LOGIC II MUSIC（PLII MS）	
PRO LOGIC II GAME（PLII GM）	
PRO LOGIC IIx MOVIE（PLIIX MV）	ドルビープロロジックIIx
PRO LOGIC IIx MUSIC（PLIIX MS）	
PRO LOGIC IIx GAME（PLIIX GM）	
NEO:6 CINEMA（NEO6 CIN）	DTS Neo:6
NEO:6 MUSIC（NEO6 MUS）	
MULTI STEREO（MULTI ST.）	

入力音声を自動的に判別する

入力された音声信号（ドルビーデジタル、DTS、2チャンネルステレオ音声など）を自動的に判別し、適切な処理をします。
このモードは残響などの効果を加えずに、録音された、またはエンコードされたままの音を再現します。また、LFE信号が存在しないときは、本機がサブウーファー用信号を生成して出力します。

A.F.D.をくり返し押して、「A.F.D. AUTO」を選ぶ

入力された音声信号を自動的に判別し、適切な処理をします。

ちょっと一言

通常は「A.F.D. AUTO」に設定すると、最も適切な処理が行われます。ただし、入力ストリームに応じてサラウンドバックデコーディングモード（31ページ）を選んだ方がよい場合があります。

2チャンネルステレオ音声をマルチチャンネルで聞く（2チャンネルデコーディングモード）

2チャンネル音声入力をマルチチャンネルで聞くためのデコーディングモードを選べます。2チャンネル音声を、ドルビープロロジックIIでは5チャンネル、ドルビープロロジックIIxでは7チャンネル、DTS Neo:6では6チャンネル、ドルビープロロジックでは4チャンネルで再生できます。ただし、DTS 2CHの音声に対してはDTS Neo:6は働かず、2チャンネルで再生されます。

A.F.D.をくり返し押して、2チャンネルデコーディングモードを選ぶ

表示窓に選ばれたA.F.D.モードが表示されます。

■PRO LOGIC

ドルビープロロジック処理を行います。2チャンネルで記録されている音を4チャンネルにデコードして再生します。

■PRO LOGIC II MOVIE

ドルビープロロジックIIのムービーモード処理を行います。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹替版や古い映画のビデオなども5.1チャンネルで再生できます。

■PRO LOGIC II MUSIC
ドルビープロロジックIIのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ録音された音声の再生に適しています。

■PRO LOGIC II GAME
ドルビープロロジックIIのゲームモード処理を行います。

■PRO LOGIC IIx MOVIE
ドルビープロロジックIIxのムービーモード処理を行います。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹替版や古い映画のビデオなども7.1チャンネルで再生できます。

■PRO LOGIC IIx MUSIC
ドルビープロロジックIIxのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ録音された音声の再生に適しています。

■PRO LOGIC IIx GAME
ドルビープロロジックIIxのゲームモード処理を行います。

ご注意
DTS信号とサンプリング周波数が48kHzより高い信号の場合はドルビープロロジックIIx処理を行うことはできません。

■NEO:6 CINEMA
DTS Neo:6のシネマモード処理を行います。

■NEO:6 MUSIC
DTS Neo:6のミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ録音の再生に適しています。

■MULTI STEREO
2チャンネルの信号に対し、L/R成分をすべてのスピーカーから出力します。

サブウーファーを接続したときは

入力された音声信号が2チャンネルステレオ音声のとき、またはLFE信号が存在しないときは、本機がサブウーファー用信号を生成し、サブウーファーから出力します。ただし、すべてのスピーカーが「LARGE」に設定されているときは、「NEO6 CIN」、「NEO6 MUS」では生成されません。

サウンドフィールドを選ぶ

本機にプログラムされているサウンドフィールド（音場効果）を選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しむことができます。ご自分の部屋で、映画館やコンサートホールの臨場感を再現できます。

映画用のサウンドフィールドを選ぶ

MOVIEをくり返し押して、お好みのサウンドフィールドを選ぶ

表示窓に、選んだサウンドフィールドが表示されます。

サウンドフィールド	表示
CINEMA STUDIO EX A DCS	C.ST.EX A
CINEMA STUDIO EX B DCS	C.ST.EX B
CINEMA STUDIO EX C DCS	C.ST.EX C
VIRTUAL MULTI DIMENSION DCS	V. M. DIM

DCS（デジタルシネマサウンド）について

DCSマークの付いたサウンドフィールドは、DCS技術を利用しています。
ソニーは、ソニー・ピクチャーズエンターテインメントとの協力によりダビングスタジオの音場を測定し、そのデータとソニー独自のDSP（Digital Signal Processor：デジタル信号処理）技術との組み合わせによりデジタルシネマサウンドを開発しました。デジタルシネマサウンドは、映画製作者が意図した理想的なシアター音場効果をホームシアターで再現します。

サラウンド効果を楽しむ

次のページへ続く

■ CINEMA STUDIO EX A DCS

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの「Cary Grant Theater」スタジオの音響特性を再現します。標準的なモードで、あらゆる映画に適しています。

■ CINEMA STUDIO EX B DCS

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの「Kim Novak Theater」スタジオの音響特性を再現します。このモードは音場効果が豊富に使われているSF映画やアクション映画に適しています。

■ CINEMA STUDIO EX C DCS

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントのスコアリング・ステージの音響特性を再現します。このモードはミュージカルや、オーケストラによるサウンドトラックが特長的な映画などに適しています。

■ VIRTUAL MULTI DIMENSION DCS

1組の実在するサラウンドスピーカーから、5組の仮想サラウンドスピーカーを生成します。

シネマスタジオEXモードについて

シネマスタジオEXは、映画のDVDソフトなどを再生して、マルチチャンネルのサラウンド効果を楽しむのに適したサウンドフィールドです。ソニー・ピクチャーズエンターテインメントのダビングスタジオの音響特性を、ご自分の部屋で再現できます。
シネマスタジオEXの各モードは、次の3つの要素から成り立っています。

- 「Virtual Multi Dimension」（バーチャルマルチディメンジョン）
  1組の実在するサラウンドスピーカーから、5組の仮想サラウンドスピーカーを生成します。
- 「Screen Depth Matching」（スクリーンデプスマッチング）
  映画館のように、音がスクリーンの中から出てくるような感覚を作り出します。
- 「Cinema Studio Reverberation」（シネマスタジオリバーブレーション）
  映画館独特の残響を再現します。

シネマスタジオEXは、これら3要素を同時に動作させる統合モードです。

ご注意

- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、エフェクトの効果によりノイズが目立つことがあります。
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、サラウンドスピーカーからどんな音も直接は聞こえません。

音楽用のサウンドフィールドを選ぶ

MUSICをくり返し押して、お好みのサウンドフィールドを選ぶ

表示窓に、選んだサウンドフィールドが表示されます。

サウンドフィールド	表示
HALL	HALL
JAZZ CLUB	JAZZ
LIVE CONCERT	CONCERT

■ HALL

長方形のコンサートホールの音響を再現します。

■ JAZZ CLUB

ジャズクラブの音響を再現します。

■ LIVE CONCERT

300席あるライブハウスの音響を再現します。

ヘッドホンを接続したときは

以下のサウンドフィールドのみ選べます。

■ HEADPHONE 2CH （HP 2CH）

2チャンネル（ステレオ）で音を出します。デジタル入力のマルチチャンネル音声は2チャンネルにダウンミックスして再生します。

■ HEADPHONE DIRECT （HP DIR）

イコライザーやサウンドフィールドで加工しないアナログ信号で音を出します。

■HEADPHONE MULTI（HP MULTI）

MULTI CH IN端子に入力されたアナログ信号を出力します。

■HEADPHONE THEATER DCS（HP THEA）

映画館にいるような雰囲気をヘッドホンで再現します。

ご注意

サウンドフィールドが働いている間にヘッドフォンを接続すると、2CH、A.F.D.で選んだサウンドフィールドはHEADPHONE 2CHに、MOVIE、MUSICで選んだサウンドフィールドはHEADPHONE THEATERに自動的に切り換わります。

サラウンド効果を解除するには

2CHを押して「2CH ST.」を選ぶか、A.F.D.をくり返し押して「A.F.D. AUTO」を選びます。

ちょっと一言

DVDソフトなどのエンコード方式は、パッケージに付いているマークで確認できます。

ー DOLBY DIGITAL：ドルビーデジタルでエンコードされているソフト

ー DOLBY SURROUND：ドルビーサラウンドでエンコードされているソフト

ー DIGITAL dts SURROUND：DTSデジタルサラウンドでエンコードされているソフト

ご注意

- サンプリング周波数が48kHzより高い信号を受けている場合はサウンドフィールド機能は働きません。
- 以下のサウンドフィールドが選ばれているとき、SP SETUPメニューのすべてのスピーカーが「LARGE」に設定されていると、サブウーファーから音が出ません。ただし、入力されたデジタル信号にLFE信号が含まれているときや、フロント、サラウンドのいずれかが「SMALL」に設定されているときは、サブウーファーから音が出ます。
  ーHALL
  ーJAZZ CLUB
  ーLIVE CONCERT

サラウンドバックデコーディング機能を使う

（SB DECODING）

マルチチャンネル入力ストリームに対して、サラウンドバック信号のデコーディングモードを選ぶ機能です。

「ドルビーデジタルEX」や「DTS-ESマトリックス6.1」、「DTS-ESディスクリート6.1」などで記録された映画のDVDソフトなどを再生するとき、サラウンドバック信号をデコードすることによって、映画製作者が意図したサラウンド音声を楽しむことができます。

SURR BACK DECODINGをくり返し押して、サラウンドバックデコーディング機能を選ぶ

詳しくは、「サラウンドバックデコーディング機能の種類」（32ページ）をご覧ください。

ご注意

A.F.D.モードでドルビープロロジックIIxモード以外を選んでいるときに限って、サラウンドバックデコーディングモードを選ぶことができます（28ページ）。

サラウンドバックデコーディング機能の種類

入力ストリームによって、お好みのモードを選べます。

「SB AUTO」を選んだときは

入力ストリームに6.1チャンネルデコードフラグ[a]があるとき、フラグに適したサラウンドバック信号をデコードします。

入力ストリーム	出力チャンネル	動作するサラウンドバックデコーダー
ドルビーデジタル 5.1	5.1[e]	－
ドルビーデジタルEX[b]	6.1	ドルビーデジタルEX準拠のマトリックスデコーダー
DTS 5.1	5.1[e]	－
DTS-ESマトリックス6.1[c]	6.1[e]	DTSマトリックスデコーダー
DTS-ESディスクリート6.1[d]	6.1[e]	DTSディスクリートデコーダー
ドルビーデジタルEX[b]	7.1	ドルビープロロジック**IIx**準拠のマトリックスデコーダー

「SB ON」を選んだときは

入力ストリームの6.1チャンネルデコードフラグ[a]にかかわらず、常にドルビーデジタルEXまたはドルビープロロジック**IIx**に準拠したマトリックスデコーダー[f]によって6.1チャンネル、7.1チャンネルの信号に対してサラウンドバック信号をデコードします。

入力ストリーム	出力チャンネル	動作するサラウンドバックデコーダー
ドルビーデジタル 5.1	6.1	ドルビーデジタルEX準拠のマトリックスデコーダー
ドルビーデジタルEX[b]	6.1	ドルビーデジタルEX準拠のマトリックスデコーダー
DTS 5.1	6.1[e]	ドルビーデジタルEX準拠のマトリックスデコーダー
DTS-ESマトリックス6.1[c]	6.1[e]	ドルビーデジタルEX準拠のマトリックスデコーダー
DTS-ESディスクリート6.1[d]	6.1[e]	ドルビーデジタルEX準拠のマトリックスデコーダー
ドルビーデジタル 5.1	7.1	ドルビープロロジック**IIx**準拠のマトリックスデコーダー
ドルビーデジタルEX[b]	7.1	ドルビープロロジック**IIx**準拠のマトリックスデコーダー

「SB OFF」を選んだときは

サラウンドバック信号はデコードされません。

[a] 6.1チャンネルデコードフラグとは、DVDなどのソフトに書き込まれている情報です。
[b] サラウンドEXフラグが書き込まれている、ドルビーデジタルのDVDです。ドルビー社のホームページなどで、サラウンドEX映画を判別することができます。
[c] 5.1チャンネルの信号とともに、サラウンドEX映画であることを示すフラグが書き込まれています。
[d] 5.1チャンネルの信号とともに、これをディスクリート6.1チャンネルに戻すための拡張ストリームが記録されています。ディスクリート6.1チャンネル信号は、映画館では使用されないDVD専用の信号です。

e) サラウンドバックスピーカーを2本接続しているときは、7.1チャンネルになります。
f) このデコーダーはドルビーデジタルEXに準拠しており、映画館用のデコーダーと同じ動作をします。ドルビーデジタルEX、DTS-ESマトリックス6.1、DTS-ESディスクリート6.1のすべての6.1フォーマットと組み合わせることができます。

ご注意

パッケージにドルビーデジタルEXのロゴが記載されていても、フラグが書かれていないディスクがあります。サラウンドバックスピーカーから音が出ない場合は、「SB ON」を選んでください。

MULTI CHANNEL DECODINGランプが点灯しているときは

マルチチャンネル音声がデコードされています。

2CH STEREOモードが選ばれている場合はMULTI CHANNEL DECODINGランプは消灯します。

コンポーネント映像を他の入力でも見られるように設定する *(COMPONENT/ D-VIDEO ASSIGN)*

コンポーネント映像以外の入力（例：VIDEO 1-3 INなど）にコンポーネント映像入力を割り当て、その入力を選ぶとコンポーネント映像が見られるように設定できます。

1 **MAIN MENUをくり返し押して、「CUSTOM」を選ぶ**

2 **MENUを回して、「COMP./ D A.」を選ぶ**

3 **ENTERを押す**

4 **MENUつまみを回して、コンポーネント映像入力を選ぶ**

5 **－/＋つまみを回して、手順４で選んだコンポーネント映像入力を割り当てたい入力を選ぶ**

これで入力を切り換えることによって、コンポーネント映像で見ることができます。詳しくは、以下の「コンポーネント映像入力に割り当てできる入力」をご覧ください。

コンポーネント映像入力に割り当てできる入力

お買い上げ時は、下線の設定がされています。

（コンポーネント映像入力）割り当てできる入力	表示窓の表示
（DVD）	
VIDEO 1	DVD- VD1
VIDEO 2	DVD- VD2
VIDEO 3	DVD- VD3
DVD	<u>DVD- DVD</u>
（TV/SAT）	
VIDEO 1	TV - VD1
VIDEO 2	TV - VD2
VIDEO 3	TV - VD3
TV/SAT	<u>TV - TV</u>

ご注意

複数のコンポーネント映像入力を、同じ入力に割り当てることはできません。VIDEO 1をDVDコンポーネント映像に割り当てた場合、VIDEO 1はTV/SATコンポーネント映像に割り当てることはできません。

デジタル機器の音声入力モードを切り換える

(INPUT MODE)

デジタル音声入力端子のある機器を選んでいるとき、音声入力モードを切り換えることができます。

1 INPUT SELECTORつまみを回して、音声入力を選ぶ

2 INPUT MODEをくり返し押して、音声入力モードを選ぶ

表示窓に、選んだ音声入力モードが表示されます。

音声入力モード

- AUTO IN（AUTO 2CH）
  デジタル接続とアナログ接続の両方の接続がされている場合は、デジタル信号が優先されます。デジタル信号入力がない場合は、アナログ音声入力が選ばれます。
- COAX IN（COAX FIXED）
  DIGITAL COAXIAL入力端子へのデジタル音声入力が常に選ばれます。
- OPT IN（OPT FIXED）
  DIGITAL OPTICAL入力端子へのデジタル音声入力が常に選ばれます。
- ANALOG（ANALOG FIXED）
  AUDIO IN L/R端子へのアナログ音声入力が常に選ばれます。

ご注意

入力信号によっては音声入力モードが選べない場合があります。その場合は表示窓に暗く表示されます。

サウンドフィールドの効果を調節する

LEVELメニューを使って、お好みに応じてサウンドフィールドの効果を調節できます。また、各スピーカーのバランスやレベルを調節できます。調節した内容は、エフェクトレベル以外はすべてのサウンドフィールドに反映されます。エフェクトレベルはサウンドフィールドごとに個別に記憶されます。

設定項目の表示に関するご注意

調節できる設定項目は、サウンドフィールドによって異なります。設定項目が暗く表示されたときは、選んだ設定項目が機能しない、あるいは設定が固定されて変更できないことを意味しています。

1 マルチチャンネルのサラウンド効果がエンコードされている音源（DVDなど）を再生する

2 MAIN MENUをくり返し押して、「LEVEL」を選ぶ

3 MENUつまみを回して、設定項目を選ぶ

詳しくは、以下の「LEVELメニューの設定項目」をご覧ください。

4 音を聞きながら－/＋つまみを回して、お好みのパラメーターを選ぶ

選んだパラメーターは自動的に確定されます。

5 他の項目を調節するときは、手順3と4をくり返す

次のページへ続く

LEVELメニューの設定項目

■T. TONE（テストトーン）

お買い上げ時の設定：OFF
それぞれのスピーカーから順番にテストトーンを出します。「AUTO」にすると、テストトーンが出るスピーカーが自動的に切り換わります。「FIX」にすると、テストトーンを出すスピーカーを選ぶことができます。

■ L R BAL. L/R XXX （フロントスピーカーバランス）

お買い上げ時の設定：BALANCE（0）
フロントスピーカーの左右のバランスを調節します。BAL. L(＋1～＋16)、BALANCE（0）、BAL. R(＋1～＋16)の33段階の範囲で調節できます。

■CTR XXX.X dB
（センタースピーカーレベル）

■SUR.L. XXX.X dB
（サラウンドスピーカー（左）レベル）

■SUR.R. XXX.X dB
（サラウンドスピーカー（右）レベル）

■SB XXX.X dB
（サラウンドバックスピーカーレベル）＊

■SBL XXX.X dB
（サラウンドバックスピーカー（左）レベル）＊＊

■SBR XXX.X dB
（サラウンドバックスピーカー（右）レベル）＊＊

■S.W. XXX.X dB
（サブウーファーレベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
いずれも－20 dB～＋10 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

＊SP SETUPメニューで、サラウンドバックスピーカーの設定が「SINGLE」に設定されているときのみ設定できます（19ページ）。
＊＊SP SETUPメニューで、サラウンドバックスピーカーの設定が「DUAL」に設定されているときのみ設定できます（19ページ）。

ちょっと一言

センタースピーカーレベルはCENTER +/–、サブウーファーレベルはSUB WOOFER +/–でも調節できます。

■ MULTI CH IN S.W. XXX dB
（マルチチャンネルサブウーファーレベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
MULTI CH IN端子のサブウーファーのレベルを10 dB上げることができます。DVDプレーヤーのサブウーファーレベルはスーパーオーディオCDよりも10 dB低いので、DVDプレーヤーを本機のMULTI CH IN端子に接続したときはこの設定項目を調節したほうがよい場合があります。

■EFCT. XXX
（エフェクトレベル）

お買い上げ時の設定：STD
サラウンド効果に更に臨場感を加えるため、MIN（小）、STD（普通）、MAX（大）の３段階に調節できます。

ご注意

エフェクトレベルはサウンドフィールドがMOVIEかMUSICに設定されているときのみ有効です。

さらにすすんだLEVELメニュー調節をするには

CUSTOMメニューで「MENU XXX」を「MENU EXP.」にすることによって、さらにすすんだ設定ができるようになります。「MENU XXX」について詳しくは38ページを、設定できる項目について詳しくは41ページをご覧ください。

サウンドフィールドをお買い上げ時の設定に戻す

アンプ本体のボタンを使って操作します。

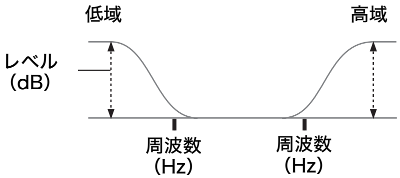
1 I/⏻（電源スイッチ）を押して電源を切る

2 2CHを押しながら、I/⏻（電源スイッチ）を押す

表示窓に「SF. CLR.」と表示され、すべてのサウンドフィールドがお買い上げ時の状態に戻ります。

イコライザーを調節する

EQメニューを使って、各スピーカーの音質（低域、高域のレベル）を調節できます。



1　マルチチャンネルのサラウンド効果がエンコードされている音源（DVDなど）を再生する

2　MAIN MENUをくり返し押して、「E Q」を選ぶ

3　MENUつまみを回して、設定項目を選ぶ

詳しくは、以下の「EQメニューの設定項目」をご覧ください。

4　音を聞きながら－/＋つまみを回して、お好みのパラメーターを選ぶ

選んだパラメーターは自動的に確定されます。

5　他の項目を調節するときは、手順3と4をくり返す

ご注意

サンプリング周波数が48kHzより高い信号やDTS96/24信号、DTS-ESマトリックス信号、DTS NEO:6信号の場合は、イコライザーは働きません。

EQメニューの設定項目

■EQ XXX

お買い上げ時の設定：OFF

イコライザーを働かせるときは「ON」を選びます。

ご注意

イコライザーをONにすると、表示窓に「EQ」が表示されます。EQメニューの設定をするとすべてのサウンドフィールドに反映されます。また、設定を自由に変えることもできます。

■ BASS XXX dB（フロントスピーカーの低域レベル）

■ TREB. XXX dB（フロントスピーカーの高域レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB

いずれも±10 dBの範囲で、1 dB単位で調節できます。

すすんだ設定をする

CUSTOMメニューで本機の設定をする

CUSTOMメニューを使って、さまざまな設定ができます。

1 MAIN MENUをくり返し押して、「CUSTOM」を選ぶ

2 MENUつまみを回して、設定項目を選ぶ

詳しくは、以下の「CUSTOMメニューの設定項目」をご覧ください。

3 −/+つまみを回して、お好みのパラメーターを選ぶ

選んだパラメーターは自動的に確定されます。

4 他の項目を設定するときは、手順2と3をくり返す

CUSTOMメニューの設定項目

お買い上げ時は、下線のパラメーターに設定されています。

■ MENU XXX（メニュー項目拡張）

- MENU EXP.
  表示窓にSP SETUPメニュー、LEVELメニューのすすんだ設定項目が表示されて、設定できるようになります。
  各メニューの設定項目について詳しくは、18ページ、39ページ、41ページをご覧ください。
- MENU STD
  各メニューのすすんだ設定項目は表示されません。

■ DTS 96/24 96 XXXX（DTS 96/24 デコーディングモード）

- 96 AUTO
  DTS 96/24信号が入力されたとき、サンプリング周波数 96 kHzで再生します。
- 96 OFF
  DTS 96/24信号が入力されても、サンプリング周波数 48 kHzで再生します。

ご注意

- この設定は、A.F.D.モード（28ページ）の場合のみ有効です。それ以外のサウンドフィールドでは、常に「96 OFF」になります。
- DTS 96/24信号は、いずれかのスピーカーが「SMALL」に設定されていたり、サブウーファーが「NO」に設定されていると、「OFF」になり、48 kHzで再生します。

■ SB XXXX（サラウンドバックデコーディングモード）

サラウンドバックデコーディングモード（31ページ）を、メニューでも設定できます。
各モードについて詳しくは、32ページをご覧ください。

- SB OFF
- SB AUTO
- SB ON

ご注意

この設定は、A.F.D.モード（28ページ）の場合のみ有効です。

■ S.F XXXX（サウンドフィールドリンク）

- S.F LINK
  入力ごとに、最後に選んでいたサウンドフィールドを記憶させることができます。例えばSA-CD/CDでHALLを選び、別の入力に切り換えた後で再びSA-CD/CDに切り換えると、自動的にHALLになります。
- S.F FIX
  サウンドフィールドリンクは働きません。

■ A.V.SYNC. XX（時間差の調整）

お買い上げ時の設定：0（0 ms）
入力された音声を遅らせて、映像と音声のずれを調節することができます。0（0 ms）～20（200 ms）の範囲で1（10）msごとに調節できます。

■ DEC. XXXX（デジタル音声入力デコードプライオリティ）

DIGITAL IN端子に入力されるデジタル音声の入力モードを設定できます。お買い上げ時は、入力がVIDEO 3、TV/SATのときは「DEC. AUTO」に、入力がDVD、MD/TAPE、SA-CD/CDのときは「DEC. PCM」に設定されています。

- DEC. AUTO
  ドルビーデジタル、DTS、PCMの音声入力を自動的に切り換えます。
- DEC. PCM
  PCM信号を優先して処理します（頭切れを防ぎます）。なお、PCM以外の信号が入力されても音は出ます。ただし、DTS-CD信号が入力された場合は音がでなくなることがあります。この場合は「AUTO」に設定してください。「AUTO」に設定してSA-CD/CDなどのデジタル音声を入力したときに、再生開始時に音がとぎれる場合は「DEC. PCM」にしてください。

■D.PWR XXX（デジタル回路の電源）

- D.PWR OFF
  ANALOG DIRECTやMULTI CH INでアナログ音声を出力するとき、不要なデジタル回路の電源を自動的に切ります。デジタル回路の影響を受けない高品位のアナログ音声をお楽しみいただけます。
- D.PWR ON
  デジタル回路の電源を常に入れたままにします。「D.PWR OFF」に設定していて、デジタル回路の電源が入るときのタイムラグが気になる場合などに選びます。

■DUAL XXX（AAC二重音声モード）

BSデジタル放送のMPEG-2 AAC二重音声を聞くとき、再生モードを設定します。

- M/S（主/副）
  左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。
- M（主）
  主音声のみを再生します。
- S（副）
  副音声のみを再生します。
- M+S（主＋副）
  主音声と副音声が合成された音声を再生します。

ちょっと一言

BSデジタル放送のMPEG-2 AACを聞くには、BSデジタルチューナーの設定メニューで、デジタル出力を「AAC」に切り換えてください。

■COMP./D A.（コンポーネントビデオの割り当て）

DVDとTV/SATのコンポーネントビデオ入力を他の入力に割り当てることができます。詳しくは「コンポーネント映像を他の入力でも見られるように設定する（COMPONENT/ D-VIDEO ASSIGN）」（34ページ）をご覧ください。

■[DIMMER]（表示窓の明るさ）

表示窓の明るさを3段階に設定します。

■NAME IN（名前設定）

INPUT SELECTORつまみで選ぶ入力の名前を付けることができます。詳しくは、「入力に名前を付ける」（42ページ）をご覧ください。

SP SETUPメニューのすすんだ設定をする

SP SETUPメニューの設定のしかたについては、18ページをご覧ください。
お買い上げ時は、下線の項目に設定されています。
*のついた項目は「MENU XXX」を「MENU EXP.」にすると、表示・設定できるようになります。

SP SETUPメニューの全設定項目

XXXX SET
SP PAT. X-X
SW S.W. XXX
L R XXXXX
C XXXXX
SL SR XXXXX
SBL SBR / SB XXXXXX
L R DIST. X.X m
C DIST. X.X m
SL SR DIST. X.X m
SBL SBR / SB DIST. X.X m
DISTANCE*
SL SR PL. XXXX*
SL SR HGT. XXXX*
SP > XXX Hz*

■DISTANCE（距離の単位）

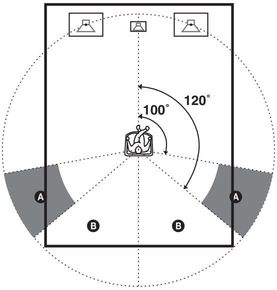
スピーカーまでの距離を表示する単位を切り換えます

- m
  メートル表示に切り換えます。
- ft.
  フィート表示に切り換えます。

次のページへ続く

■ SL SR PL. XXXX（サラウンドスピーカーの位置）＊

シネマスタジオEXモード（30ページ）によるサラウンド効果を充分に得るために、サラウンドスピーカーの位置を設定します。



- PL. SIDE
  サラウンドスピーカーの位置がⒶの範囲にあるときに選びます。
- PL. BEHD
  サラウンドスピーカーの位置がⒷの範囲にあるときに選びます。

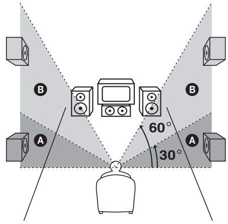
＊サラウンドスピーカーの設定が「NO」のとき（19ページ）は設定できません。

ちょっと一言

サラウンドスピーカーの位置は、シネマスタジオEXモード専用の設定です。
通常のサウンドフィールドでは、スピーカーの配置はそれほど重要ではありません。基本的にはスピーカーは後方配置を標準として設計していますが、角度が相当開いていても効果が比較的薄れません。しかしスピーカーを耳の真横に置くと効果がはっきりしなくなるため、「PL. SIDE」を用意しました。
ただし、リスニング環境には壁の反射もありますし、スピーカーの位置が高いときは、サラウンドスピーカーがほぼ真横にあっても「PL. BEHD」に設定したほうが良い場合があります。
つまり、実際に設定してみて、より広がり感が豊かで、サラウンド空間とフロントとのつながりの良いほうを選択するのが良いと思います。迷ったら「PL. BEHD」に設定し、距離や音量を調節してより良い広がり感になるようにしてください。

■ SL SR HGT. XXXX（サラウンドスピーカーの高さ）＊

シネマスタジオEXモード（30ページ）によるサラウンド効果を充分に得るために、サラウンドスピーカーの高さを設定します。



- HGT. LOW
  サラウンドスピーカーの高さがⒶの範囲にあるときに選びます。
- HGT. HIGH
  サラウンドスピーカーの高さがⒷの範囲にあるときに選びます。

＊サラウンドスピーカーの設定が「NO」のとき（19ページ）は設定できません。

■ SP ＞ XXX Hz（スピーカークロスオーバー周波数）＊

お買い上げ時の設定：100 Hz
SP SETUPメニューで「SMALL」に設定されているスピーカーの低音域のクロスオーバー周波数を調節します。40 Hz〜160 Hz範囲で、10 Hzごとに調節できます。

＊いずれかのスピーカーが「SMALL」に設定されている場合のみ有効です。表示窓に該当のスピーカー表示が点滅します。

LEVELメニューのすすんだ設定をする

LEVELメニューの設定のしかたについては、35ページをご覧ください。
お買い上げ時は、下線の項目に設定されています。
[a] の項目は「MENU XXX」を「MENU EXP.」にすると、表示・設定できるようになります。

LEVELメニューの全設定項目

T. TONE
P. NOISE[a]
P. AUDIO[a]
BALANCE/BAL. X+XX
CTR XXX.X dB
SUR.L. XXX.X dB
SUR.R. XXX.X dB
SB XXX.X dB[b]
SBL XXX.X dB[c]
SBR XXX.X dB[c]
S.W. XXX.X dB
MULTI CH IN S.W. XXX dB
D.RANGE COMP. XXX[a]
EFCT. XXX

[b] サラウンドバックスピーカーの設定が「SINGLE」のときのみ設定できます（19ページ）。
[c] サラウンドバックスピーカーの設定が「DUAL」のときのみ設定できます（19ページ）。

■P. NOISE（フェーズノイズ）

お買い上げ時の設定：OFF
となりあった2つのスピーカーから順番にテストトーンを出します。

■P. AUDIO（フェーズオーディオ）

お買い上げ時の設定：OFF
となりあった2つのスピーカーから順番に、テストトーンではなくフロント2チャンネルの音源を出します。

■ D.RANGE COMP. XXX（ダイナミックレンジの圧縮）

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小音量で映画を見たいときなどに便利です。

- COMP. OFF
  ダイナミックレンジの圧縮は行われません。
- COMP. STD
  レコーディングエンジニアが意図するダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。
- COMP. MAX
  ダイナミックレンジを極端に狭くします。

ちょっと一言

「ダイナミックレンジの圧縮」では、ダイナミックレンジをドルビーデジタルに記録されているダイナミックレンジ情報に基づいて圧縮します。「COMP. STD」が本来の圧縮値ですが、控えめな場合があります。そこで「COMP. MAX」をおすすめします。これは極端にダイナミックレンジを圧縮しますので、深夜のビデオ鑑賞などに便利です。アナログのリミッターとは異なり、機器側が圧縮ポイントをあらかじめ予測しているため、自然な圧縮になります。

ご注意

ダイナミックレンジの圧縮はドルビーデジタルの音声にのみ働きます。

入力に名前を付ける

INPUT SELECTORつまみで選ぶ入力に8文字までの名前を付けて、本機の表示窓に表示できます。

1 INPUT SELECTORつまみを回して、名前を付けたい入力を選ぶ

2 MAIN MENUをくり返し押して、「CUSTOM」を選ぶ

3 MENUつまみを右へ回して、「NAME IN」を選ぶ

4 ENTERを押す、または－/＋つまみを回す

カーソルが点滅し、文字を選択できる状態になります。

5 MENUつまみと－/＋つまみを使って名前を付ける

－/＋つまみを回して文字を選び、MENUつまみを右に回してカーソルを次へ動かします。

ちょっと一言

- －/＋つまみを回すと、大文字アルファベット→数字→記号の順に文字の種類を選べます。
- スペースを入れるには、表示窓にスペースが表示されるまで－/＋つまみを回します。
- 間違えて入力したときは、MENUつまみを回して変更したい文字を点滅させ、－/＋つまみで正しい文字を選びます。

6 ENTERを押す

名前が確定します。

7 別の入力に名前を付けるときは、手順1～6をくり返す

スリープタイマーを使う

指定した時間が経つと、本機の電源を自動的にオフにすることができます。

電源が入っているときに、リモコンのALTを押してからSLEEPを押す

SLEEPを押すたびに時間表示が次のように切り換わります。
2-00-00 → 1-30-00 → 1-00-00 → 0-30-00 → OFF
スリープタイマーが働いているあいだは表示窓の「SLEEP」が点灯します。

ちょっと一言

残り時間を確認するには、電源が入っているときに、リモコンのALTを押してからSLEEPを押します。表示窓に残り時間が表示されます。もう一度SLEEPを押したらスリープタイマーは解除されます。

使用するフロントスピーカーを選ぶ

使用するフロントスピーカーを選ぶことができます。

SPEAKERS（OFF/A/B/A+B）をくり返し押して、使用するスピーカーシステムを選ぶ

表示窓に、選んだスピーカーシステムが表示されます。
スピーカーから音声を出力しないときは、SP AとSP Bの表示が消えるまでSPEAKERSを押します。

使用するスピーカーシステム

- SP A
  SPEAKERS FRONT A端子に接続したスピーカーを使う。
- SP B
  SPEAKERS FRONT B端子に接続したスピーカーを使う。
- SP A
  SP B
  SPEAKERS FRONT A端子とSPEAKERS FRONT B端子につないだスピーカーを使う（パラレル接続）。この場合、12Ωまたはそれ以上のインピーダンスのスピーカーをつないでください。

他機をつないで録音/録画する

録音する前に、すべての機器が正しく接続されているか確認してください。

カセットテープやミニディスクに録音する

本機を使ってカセットテープまたはミニディスクに録音できます。お手持ちのカセットデッキまたはMDデッキの取扱説明書もご覧ください。

1 再生機器（プログラムソース）を接続した入力を選ぶ

2 再生機器を準備する

例：CDプレーヤーにCDを入れる。

3 録音機器にカセットテープまたはミニディスクを入れ、録音レベルを調節する

4 録音機器側で録音を開始し、再生機器側で再生する

ご注意

- デジタル録音する場合は、デジタル接続してください。MD/TAPE OPTICAL OUT端子からデジタル録音できます。
- MD/TAPE OUT端子から出力される信号に対して、音の調節は効きません。
- 選ばれている入力のアナログ音声信号がMD/TAPE AUDIO OUT端子から出力されます。
- MULTI CH IN機能を使っていても、MULTI CH IN端子に入力された音声信号はMD/TAPE AUDIO OUT端子からは出力されません。MULTI CH IN機能を使う前の入力のアナログ音声信号が出力されます。
- ANALOG DIRECT機能を使うときは、音声信号はMD/TAPE OPTICAL OUT端子からは出力されません。「D.PWR XXX」を「D.PWR OFF」に設定しているときは、デジタル回路の電源はオフになり、より高音質のアナログ信号が出力されます。
- 録音防止機能のあるソースは録音できません。

録画する

本機を使って映像機器からビデオテープなどに録画できます。お手持ちの映像機器の取扱説明書もご覧ください。

1 再生機器（プログラムソース）を接続した入力を選ぶ

2 再生機器の準備をする

例：ビデオデッキにビデオテープを入れる。

3 （VIDEO 1 またはVIDEO 2 につないだ）録画機器に録画用のビデオテープなどを入れる

4 録画機器側で録画を開始し、再生機器側で再生する

ご注意

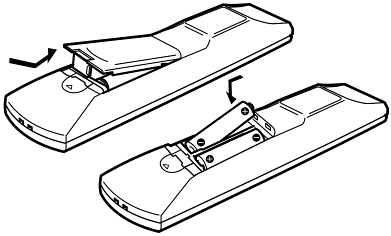
- 再生機器からアナログ接続で信号を入力している場合は、VIDEO 1とVIDEO 2のAUDIO OUT端子からアナログ録音できます。
- TV/SAT端子またはDVD端子に接続する場合には、デジタルとアナログ両方の接続をしてください。デジタル接続のみのときは、アナログ録音はできません。
- 録画防止機能のあるソースは録画できません。
- MULTI CH IN機能を使っていても、MULTI CH IN端子に入力された音声信号はVIDEO 1 AUDIO OUT端子またはVIDEO 2 AUDIO OUT端子からは出力されません。MULTI CH IN機能を使う前の入力のアナログ音声信号が出力されます。

付属のリモコンRM-AAP002を使って、本機を操作することができます。

リモコンを使う前に

リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、単3形乾電池（付属）2個を入れる。



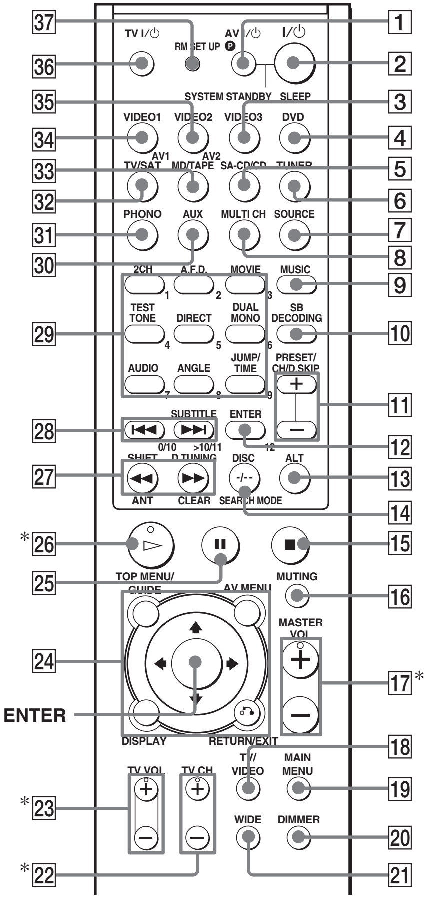
ちょっと一言

乾電池の寿命は約6か月です。残りが少なくなると、リモコンで操作できる範囲が短くなります。これを目安にして、2個とも新しい乾電池に交換してください。

ご注意

- 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
  - ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
  - 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  - 液もれしたときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部 🅁 に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

各部の名前と働き



＊ ▷、TV VOL+、TV CH+、MASTER VOL+には凸点（突起）があります。操作の目印としてお使いください。

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
A.F.D. 29	アンプ	A.F.D.モードを選ぶ
ALT 13	リモコン	オレンジ色で書かれたボタンの機能を使うときに押す
ANGLE 29	DVDプレーヤー/ブルーレイディスクレコーダー	アングルを選ぶ

次のページへ続く

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
ANT 27（ALTを押してから）	ビデオデッキ	ビデオのアンテナ端子からの出力信号を選ぶ（テレビまたはビデオ信号）
	BSデジタルチューナー /デジタルCSチューナー	サテライトを選ぶ
AUDIO 29	テレビ/ビデオデッキ/DVDプレーヤー /BSデジタルチューナー /デジタルCSチューナー /ブルーレイディスクレコーダー /ハードディスクレコーダー /PSX	音声を選ぶ（マルチ、バイリンガル）
AUX 30	アンプ	オーディオ機器の音を選ぶ
AV MENU 24	ビデオデッキ/BSデジタルチューナー /デジタルCSチューナー /DVDプレーヤー /ブルーレイディスクレコーダー /ハードディスクレコーダー /PSX	メニューを表示する
AV1 34 AV2 35	リモコン	リモコンのコマンドモードを選ぶ
AV I/⏻ 1	テレビ/ビデオデッキ/BSデジタルチューナー /デジタルCSチューナー /CDプレーヤー /ビデオCDプレーヤー /LDプレーヤー /DVDプレーヤー /MDデッキ/DATデッキ/ブルーレイディスクレコーダー /ハードディスクレコーダー /PSX	オーディオ/ビデオ機器の電源を入/切する

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
CLEAR 27（ALTを押してから）	BSデジタルチューナー /デジタルCSチューナー /CDプレーヤー /DVDプレーヤー /ブルーレイディスクレコーダー /PSX	数字ボタンを押すときや連続再生に戻すときに間違えたときに押す
DIMMER 20	アンプ	表示窓の明るさを調節する
DIRECT 29	アンプ	ANALOG DIRECT機能を選ぶ
DISC 14	CDプレーヤー /ビデオCDプレーヤー	ディスクを直接選ぶ（チェンジャーのみ）
DISPLAY 24	アンプ/テレビ/ビデオデッキ/BSデジタルチューナー /デジタルCSチューナー /CDプレーヤー /ビデオCDプレーヤー /LDプレーヤー /DVDプレーヤー /MDデッキ/ブルーレイディスクレコーダー /ハードディスクレコーダー /PSX	テレビ画面に出る表示を選ぶ
D.TUNING 27	チューナー	手動受信モードにする
DUAL MONO 29	アンプ	デジタル放送の言語を切り換える
DVD 4	アンプ	DVDを選ぶ
ENTER 12	テレビ/ビデオデッキ/BSデジタルチューナー /デジタルCSチューナー /LDプレーヤー /MDデッキ/DATデッキ/カセットデッキ/ブルーレイディスクレコーダー /ハードディスクレコーダー /PSX	数字ボタンでチャンネル、ディスク、トラックを選んだあと、押して確定する。

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
ENTER 24	アンプ/ビデオデッキ/BSデジタルチューナー/デジタルCSチューナー/DVDプレーヤー/ブルーレイディスクレコーダー/ハードディスクレコーダー/PSX	選んだメニュー項目を確定する
JUMP/TIME 29	BSデジタルチューナー/デジタルCSチューナー	前のチャンネルと今のチャンネルを切り替える
	CDプレーヤー/ビデオCDプレーヤー/DVDプレーヤー/MDデッキ/ブルーレイディスクレコーダー	時間情報を選ぶ
MAIN MENU 19	アンプ	アンプのメニュー（SP SETUP、LEVEL、EQまたはCUSTOM）を選ぶ
MASTER VOL＋／－ 17	アンプ	音量を調節する
MD/TAPE 33	アンプ	MDまたはテープを選ぶ
MOVIE 29	アンプ	映画用のサウンドフィールドを選ぶ
MULTI CH 8	アンプ	MULTI CH DIRECT機能を使う
MUSIC 9	アンプ	音楽用のサウンドフィールドを選ぶ
MUTING 16	アンプ	アンプの音をミュートする
PHONO 31	アンプ	レコードを選ぶ

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
PRESET/CH/D.SKIP +/– 11	チューナー	登録した放送局を探す/選ぶ
	テレビ/ビデオデッキ/BSデジタルチューナー/デジタルCSチューナー/ブルーレイディスクレコーダー/ハードディスクレコーダー	プリセットチャンネルを選ぶ
	CDプレーヤー/ビデオCDプレーヤー/LDプレーヤー/DVDプレーヤー/MDデッキ	ディスクをスキップする（チェンジャーのみ）
RETURN/EXIT 24	ビデオCDプレーヤー/LDプレーヤー/DVDプレーヤー	前のメニューに戻る、またはメニュー設定をやめる
	BSデジタルチューナー/デジタルCSチューナー	メニュー設定をやめる
RM SET UP 37	リモコン	リモコンを設定する
SA-CD/CD 5	アンプ	スーパーオーディオCDまたはCDを選ぶ
SB DECODING 10	アンプ	サラウンドバックデコーディングを選ぶ
SEARCH MODE 14	DVDプレーヤー	サーチモードを選ぶ。サーチする単位（トラック、インデックスなど）を選ぶ
SHIFT 27	チューナー	放送局を登録するときや、登録した放送局を選ぶときに、くり返し押してメモリーページを選ぶ
SLEEP 2（ALTを押してから）	アンプ	スリープタイマーを使ってアンプの電源が切れるまでの時間を設定する
SOURCE 7	アンプ	2ND ZONEの入力を選ぶ
SUBTITLE 28（ALTを押してから）	DVDプレーヤー	字幕を選ぶ

次のページへ続く

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
SYSTEM STANDBY（AV I/⏻ 1 とI/⏻ 2 を同時に押す）	アンプ/テレビ/ビデオデッキ/BSデジタルチューナー /デジタルCSチューナー /CDプレーヤー /ビデオCDプレーヤー /LDプレーヤー /DVDプレーヤー/MDデッキ/DATデッキ	アンプとソニー製オーディオ/ビデオ機器の電源を切る
TEST TONE 29	アンプ	テストトーンを出す
TOP MENU/GUIDE 24	DVDプレーヤー	DVDのタイトルを表示する
	BSデジタルチューナー /デジタルCSチューナー /ブルーレイディスクレコーダー /ハードディスクレコーダー /PSX	ガイド画面を表示する
TUNER 6	アンプ	ラジオを選ぶ
TV CH +/– 22	テレビ	テレビのチャンネルを選ぶ
TV/SAT 32	アンプ	テレビ番組や衛星放送を選ぶ
TV/VIDEO 18	テレビ	入力信号を選ぶ（テレビまたはビデオ入力）
TV VOL +/– 23	テレビ	テレビの音量を調節する
TV I/⏻ 36	テレビ	テレビの電源を入/切する
VIDEO 1 34	アンプ	ビデオを選ぶ（VTRモード3）
VIDEO 2 35	アンプ	ビデオを選ぶ（VTRモード1）
VIDEO 3 3	アンプ	ビデオを選ぶ（VTRモード2）
WIDE 21	テレビ	ワイド画面モードを選ぶ

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
▷ 26	ビデオデッキ/CDプレーヤー /ビデオCDプレーヤー /LDプレーヤー /DVDプレーヤー /MDデッキ/DATデッキ/カセットデッキ/ブルーレイディスクレコーダー /ハードディスクレコーダー /PSX	再生する
❚❚ 25	ビデオデッキ/CDプレーヤー /ビデオCDプレーヤー /LDプレーヤー /DVDプレーヤー /MDデッキ/DATデッキ/カセットデッキ/ブルーレイディスクレコーダー /ハードディスクレコーダー /PSX	再生または録音を一時停止する（録音一時停止中に押すと録音を始める）
■ 15	ビデオデッキ/CDプレーヤー /ビデオCDプレーヤー /LDプレーヤー /DVDプレーヤー /MDデッキ/DATデッキ/カセットデッキ/ブルーレイディスクレコーダー /ハードディスクレコーダー /PSX	停止する
⏮/⏭ 28	ビデオデッキ/CDプレーヤー /ビデオCDプレーヤー /DVDプレーヤー /LDプレーヤー /MDデッキ/DATデッキ/カセットデッキ/ブルーレイディスクレコーダー /ハードディスクレコーダー /PSX	トラックを戻す/進める

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
◀◀/▶▶ 27	CDプレーヤー /ビデオCDプレーヤー /DVDプレーヤー /LDプレーヤー /MDデッキ/ブルーレイディスクレコーダー /ハードディスクレコーダー /PSX	トラックを（順または逆方向に）サーチする
	ビデオデッキ/DATデッキ/カセットデッキ	早送りまたは巻き戻しする
↶ 24	BSデジタルチューナー /デジタルCSチューナー /ビデオCDプレーヤー /LDプレーヤー /DVDプレーヤー /ブルーレイディスクレコーダー /ハードディスクレコーダー /PSX	前のメニューに戻る、またはメニューをやめる
↑/↓ 24	アンプ	メニュー項目を選ぶ
←/→ 24	アンプ	設定を調節したり変更する
↑/↓/←/→ 24	ビデオデッキ/BSデジタルチューナー /デジタルCSチューナー /ビデオCDプレーヤー /LDプレーヤー /DVDプレーヤー /ブルーレイディスクレコーダー /ハードディスクレコーダー /PSX	メニュー項目を選ぶ
I/⏻ 2	アンプ	アンプの電源を入/切する

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
1-9 29、0/10 28（ALTを押してから）	CDプレーヤー /ビデオCDプレーヤー /DVDプレーヤー /LDプレーヤー /MDデッキ/DATデッキ/カセットデッキ	トラック番号を選ぶ 0/10を押すと10が入力されます
	テレビ/ビデオデッキ/BSデジタルチューナー /デジタルCSチューナー /ビデオCDプレーヤー /LDプレーヤー /DVDプレーヤー /ブルーレイディスクレコーダー /ハードディスクレコーダー /PSX	チャンネル番号を選ぶ
>10/11 28（ALTを押してから）	CDプレーヤー /ビデオCDプレーヤー /LDプレーヤー /MDデッキ/カセットデッキ	10以上のトラック番号を選ぶ
	テレビ/ビデオデッキ/BSデジタルチューナー /デジタルCSチューナー /ブルーレイディスクレコーダー /ハードディスクレコーダー /PSX	11チャンネルを選ぶ
12 12（ALTを押してから）	テレビ/ビデオデッキ/BSデジタルチューナー /デジタルCSチューナー /ブルーレイディスクレコーダー /ハードディスクレコーダー /PSX	12チャンネルを選ぶ
-/-- 14	テレビ/ビデオデッキ/BSデジタルチューナー /デジタルCSチューナー /ブルーレイディスクレコーダー /ハードディスクレコーダー /PSX	チャンネル入力モードを選ぶ（1文字または2文字）

次のページへ続く

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
2CH 29	アンプ	2CH STEREOモードを選ぶ

ご注意

- リモコンの12とSOURCEボタンはアンプの操作には使えません。
- 機種によっては動作しないボタンがあります。
- 機能の説明は、例としてあげています。機器によっては、上記の操作ができなかったり、説明されている通りに動かない場合があります。

ちょっと一言

- AUXボタンまたはMULTI CHボタンでAV機器を操作する場合は、操作する前にこれらのボタンの設定をしてください。詳しくは「お使いの機器に合わせて本機を設定する」（50ページ）をご覧ください。
- オレンジ色で書かれたボタンの機能を使うときは、先にALTを押してください。
- アンプの操作をするために↑/↓/←/→とENTERを使うときは、先にMAIN MENUを押してください。他の機器の操作をするために使うときは、先に入力を選び、AV MENUまたはTOP MENU/GUIDEを押してください。

お使いの機器に合わせて本機を設定する

初期設定では操作できないソニー製機器も、設定して操作できるようになります。操作できるのは、赤外線コントロールを受け付ける機器のみです。

1 RM SET UPを押しながら、AV I/⏻を押す

RM SET UPが点灯します。

RM SET UPは先の細いもので1秒以上押してください。

2 入力切り換え用のボタンを押して設定したい入力を選ぶ

たとえば、CDプレーヤを操作したいときは、SA-CD/CDを選びます。

TV I/⏻の設定を変えることもできます。

3 数字ボタンを押して、機器とメーカー別の対応コードを入力する（コードが複数ある場合は、そのうちの１つを入力する）

機器・メーカー別の対応コードについては、51ページからの表のとおりです。(最初の数字は機器の種類のコードを、次の２けたの数字はメーカーのコードを表します）

4 ENTERを押す

有効な対応コードが入力されると、RM SET UPがゆっくりと２回点滅し、設定モードが終了します。

5 他の機器を設定するときは、手順1～4をくり返す

設定操作を途中でやめるときは

RM SET UPを押します。自動的に設定モードが終了します。

設定した機器を使うには

設定したボタンを押します。

うまく設定できないときは以下の項目を確認してください。

- 手順１でRM SET UPが点灯しない場合は、リモコンの電池が残り少なくなっています。2個とも新しい電池と交換してください。
- 対応コードを入力しているあいだにRM SET UPが４回すばやく点滅した時はエラーが起こっています。この場合は手順1からやり直してください。
- 手順1でRM SET UPを押してから何もしないで60秒たつと、設定モードは終了します。この場合は手順1からやり直してください。

ご注意

- 有効なボタンが押されているあいだは、RM SET UPは消灯します。
- 手順2で入力ボタンを2つ以上押した場合、最後に押したボタンのみ有効となります。
- 手順2でTV I/⏻を押した場合、TV VOL +/–、TV CH +/–、TV/VIDEO、WIDEのみ設定が変更されます。
- 手順3で入力ボタンを押した場合、新しい入力が選ばれ、手順３のはじめに戻ります。
- 対応コードは、最初に入力した3つの数字が有効となります。

リモコンを初期設定に戻すには

I/⏻、AV I/⏻、MASTER VOL –を同時に押します。RM SET UPが３回点滅してから消えます。

機器・メーカー別の対応コード

この対応コードを使って他社製の機器や、初期設定のままでは操作できないソニー製機器を操作できるように設定します。それぞれの機器が受け付けるリモコン信号はモデルや年式によっても異なりますので、一つの機器に複数のコードが割り当てられている場合もあります。ある1つのコードを使っても設定できない場合は、別のコードを使って設定してみてください。

ご注意

- 機器によっては一部またはすべての対応コードで操作できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- 操作する機器によっては、本機の特定のボタンが機能しなくなる場合があります。

チューナーの対応コード

メーカー	コード
SONY	002、003、004、005

CDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	101、102、103
DENON	104、123
JVC	105、106、107
KENWOOD	108、109、110
MAGNAVOX	111、116
MARANTZ	116
ONKYO	112、113、114
PANASONIC	115
PHILIPS	116
PIONEER	117
TECHNICS	115、118、119
YAMAHA	120、121、122

DATデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	203
PIONEER	219

次のページへ続く

カセットデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	201、202
DENON	204、205
KENWOOD	206、207、208、209
NAKAMICHI	210
PANASONIC	216
PHILIPS	211、212
PIONEER	213、214
TECHNICS	215、216
YAMAHA	217、218

MDデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	301
DENON	302
JVC	303
KENWOOD	304

DVDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	401、402、403
PANASONIC	406、408
PHILIPS	407
PIONEER	409
TOSHIBA	404
DENON	405

テレビの対応コード

メーカー	コード
SONY	501、502
DAEWOO	504、505、506、515、544
FISHER	508
GOLDSTAR/LG	503、511、512、515、534、544
GRUNDIG	517、534
HITACHI	513、514、515、544
ITT/NOKIA	521、522
JVC	516
MAGNAVOX	503、518、544
MITSUBISHI/MGA	503、519、544
NEC	503、520、544
PANASONIC	509、524
PHILIPS	515、518
PIONEER	509、525、526
RCA/PROSCAN	510、527、529、544
SAMSUNG	503、515、531、532、533、534、544
SANYO	508、545、547
SHARP	535
TELEFUNKEN	523、537、547
THOMSON	530、537、539
TOSHIBA	535、541
ZENITH	542、543

LDプレーヤー対応コード表

メーカー	コード
SONY	601、602、603
PIONEER	606

ビデオCDプレーヤー対応コード表

メーカー	コード
SONY	605

ビデオデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	701、702、703、704、705、706
AIWA*	710、750、757、758
AKAI	707、708、709、759
BLAUPUNKT	740
EMERSON	711、712、713、714、715、716、750
FISHER	717、718、719、720
GENERAL ELECTRIC	721、722、730
GOLDSTAR/LG	723、753
GRUNDIG	724
HITACHI	722、725、729、741、
ITT/NOKIA	717
JVC	726、727、728、736

メーカー	コード
MAGNAVOX	730、731、738
MITUBISHI/ MGA	732、733、734、735
NEC	736
PANASONIC	729、730、737、738、739、740
PHILIPS	729、730、731
PIONEER	729
RCA/ PROSCAN	722、729、730、731、741、747
SAMSUNG	742、743、744、745
SANYO	717、720、746
SHARP	748、749
TELEFUNKEN	751、752
TOSHIBA	747、755、756
ZENITH	754

* アイワのコードを設定してもアイワ製のビデオデッキを操作できない場合は、ソニーのコードを入力してください。

BSデジタルチューナー /デジタルCSチューナー対応コード表

メーカー	コード
SONY	801、802、803、804
JERROLD/G.I.	806、807、808、809、810、811、812、813、814
PANASONIC	818
RCA	805、819
S.ATLANTA	815、816、817

ハードディスクレコーダー対応コード表

メーカー	コード
SONY	307、308、309

ブルーレイディスクレコーダー対応コード表

メーカー	コード
SONY	310、311、312

PSX対応コード表

メーカー	コード
SONY	313、314、315

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキから近い所。

（テレビやビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。

特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。

また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しの良い所でお使いください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。



窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

症状	原因と対応のしかた
どの音源を選んでも音が出ない、ほとんど聞こえない	→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → 本機と選んだ機器の電源が入っているか確認する。 → MASTER VOLUME –/+が–∞dBになっていないか確認する。 → SPEAKERS（OFF/A/B/A+B）が「OFF」になっていないか確認する（43ページ）。 → ヘッドホンがつながれていないか確認する。 → リモコンのMUTINGを押して、ミュート機能を解除する。
選んだ機器から音が出ない	→ 選んだ機器の音声入力端子に正しく接続されているか確認する。 → 接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。 → アンプに対して正しい機器が選ばれているか確認する。
片方のフロントスピーカーから音が出ない	→ ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認する。ヘッドホンの片方のチャンネルしか聞こえない場合は、選んだ機器と本機が正しく接続されていません。正しく接続されているか確認してください。両方のチャンネルが聞こえる場合は、フロントスピーカーが正しく接続されていません。正しく接続されているか確認してください。
アナログ２チャンネル入力の音が出ない	→ 選んだ入力に、INPUT MODE機能を使ってデジタル入力固定（「COAX IN」、「OPT IN」）を選んでいないか確認する（35ページ）。 → MULTI CH IN機能を使っていないか確認する。
デジタル入力（COAXIAL、OPTICAL）の音が出ない	→ 選んだ入力に、INPUT MODE機能を使ってアナログ入力固定（「ANALOG」）を選んでいないか確認する。またはOPTICAL入力時に「COAX IN」を選んでいないか、逆にCOAXIAL入力時に「OPT IN」を選んでいないか確認する（35ページ）。 → MULTI CH IN機能を使っていないか確認する。
左右の音のバランスが悪い、または逆転している	→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → LEVELメニューにあるバランスパラメーターを調節する。
ハム音またはノイズがひどい	→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3 m離れているか確認する。 → テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。 → ⏚ SIGNAL GROUNDが正しく接続されているか確認する。 → プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。
サラウンドバックスピーカーの音が出ない	→ パッケージにドルビーデジタルEXのロゴが記載されていても、フラグが書かれていないディスクの場合、手動でSB ONを選ぶ（31～33ページ）。

次のページへ続く

症状	原因と対応のしかた
センタースピーカー、サラウンドスピーカーまたはサラウンドバックスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない	→ サウンドフィールドが働いているか確認する（A.F.D.、MOVIE、MUSICのどれかを押す）。 → シネマスタジオEXモードを選ぶ（29ページ）。 → スピーカーの音量を調節する（21ページ）。 → センタースピーカー、サラウンドスピーカーが「SMALL」または「LARGE」に正しく設定されているか確認する（19ページ）。 → サラウンドバックスピーカーが「DUAL」か「SINGLE」に正しく設定されているか確認する（19ページ）。 → パッケージにドルビーデジタルEXのロゴが記載されていても、フラグが書かれていないディスクの場合、手動でSB ONを選ぶ（31～33ページ）。
サブウーファーの音が出ない	→ サブウーファーの電源が入っているか確認する。 → サブウーファーが正しく接続されているか確認する。 → サブウーファー選択のパラメーターが「YES」になっているか確認する（18ページ）。 → サウンドフィールドの設定によってはサブウーファーから音が出ません。
サラウンド効果が得られない	→ サウンドフィールドが働いているか確認する（A.F.D.、MOVIE、MUSICのどれかを押す）。 → サンプリング周波数48 kHzを超える信号が入力されているときは、サウンドフィールドは働きません。
ドルビーデジタルやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない	→ 再生中のDVDなどが、ドルビーデジタルやDTSで録音されているか確認する。 → DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子に接続しているときは、接続した機器の音声の出力設定を確認する。
録音ができない	→ 各機器が正しく接続されているか確認する。 → INPUT SELECTORつまみで録音したい機器を選ぶ。 → MD/TAPE AUDIO OUT端子に接続されているアナログ機器へ録音する場合は、INPUT MODE機能を使ってアナログ入力固定（「ANALOG」）を選んでいることを確認する（35ページ）。 → MD/TAPE OPTICAL OUT端子に接続されているデジタル機器へ録音する場合は、INPUT MODE機能を使ってデジタル入力固定（「COAX IN」、「OPT IN」）を選んでいることを確認する（35ページ）。
テレビ画面に映像が出ない、または明瞭でない	→ 適切な入力を選ぶ。 → テレビの入力モードを確認する。 → テレビをオーディオ機器から離す。 → 映像機器やテレビとの接続で、COMPONENT VIDEO端子とD4 VIDEO端子の両方を接続していないか確認する（7、8、11ページ）。 → 映像機器と本機の接続コードと同じ種類のコードで、本機とテレビを接続する（7、8、11ページ）。

症状	原因と対応のしかた
リモコンで操作できない	➔ 本体のリモコン受光部に向けて操作する。 ➔ リモコンと本体の間にある障害物を取り除く ➔ リモコンの乾電池を交換する。 ➔ 本体とリモコンのコマンドモードが一致しているか確認する（17ページ）。本体とリモコンのコマンドモードが違うと操作できません。 ➔ リモコンで正しい入力を選んだか確認する。 ➔ 他社製の機器を操作できるようにリモコンを設定したときは、その機器のメーカーや年式によっては正しく操作できない場合がある。
MD/TAPE OPTICAL OUT端子が赤く点滅している	➔ INPUT MODEで「AUTO IN」を選んでいる場合、デジタル音声入力がないときに赤く点滅します。これはINPUT MODEの機能によるもので故障ではありません。

エラーメッセージ一覧

本機が正しく動作していないとき、表示窓にメッセージが表示されます。表示によって、本機の状態がわかるようになっています。以下の表をご覧になり、表示に合った対応をしてください。2、3度くり返しても正常に戻らないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

メッセージ	原因と対応のしかた
DEC. ERR.	CUSTOMメニューの「DEC. XXXX」が「DEC. PCM」に設定されている場合、DTS-CDなどデコードできない信号が入力されると表示されます。「DEC. AUTO」に設定してください（38～39ページ）。
PROTECT	スピーカー出力に異常な電流が流れています。数秒して本機の電源は自動的に切れます。スピーカーコードの接続を確認してから再度電源を入れてください。それでも解決されない場合は、本機の電源を切り、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

本機のメモリーをクリアするための参照ページ

消去するメモリー	参照ページ
全てのメモリー	17ページ
調節したサウンドフィールド	36ページ
リモコンのメモリー	51ページ

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：TA-DB890
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

実用最大出力
ステレオモード：115 W ＋ 115 W（6 Ω、JEITA）
サラウンドモード：(6 Ω、JEITA)
フロント部：115 W ＋ 115 W
センター部：115 W
サラウンド部：115 W/115 W
サラウンドバック部：
115 W/115 W

スピーカー適合インピーダンス
フロント、サラウンド、センター、サラウンドバック部：
6 Ωまたはそれ以上

高調波ひずみ率
0.09 %以下
20 Hz～20 kHz（6 Ω負荷）
85 W＋85 W

周波数特性　MULTI CH IN、SA-CD/CD、MD/TAPE、DVD、TV/SAT、VIDEO 1、2、3、TUNER：
10 Hz～100 kHz
+0.5/–2 dB
（ANALOG DIRECT時）

入力（アナログ）
MULTI CH IN、SA-CD/CD、MD/TAPE、DVD、TV/SAT、VIDEO 1、2、3、TUNER：
入力感度：150 mV
入力インピーダンス：50 kΩ
S/N比*：96 dB
（A、150 mV**）
PHONO：
入力感度：2.5 mV
入力インピーダンス：50 kΩ
S/N比*：86 dB
（A、2.5 mV**）

*　入力ショート
** フィルター、入力レベル

入力（デジタル）
DVD、SA-CD/CD（COAXIAL）：
入力インピーダンス：75 Ω
S/N比：100 dB
（20 kHz LP、A）＊
DVD、TV/SAT、MD/TAPE、
VIDEO 3（OPTICAL）：
S/N比：100 dB
（20 kHz LP、A）＊
＊フィルター

出力（アナログ）
MD/TAPE、VIDEO 1、2（AUDIO OUT）；
出力：150 mV
出力インピーダンス：2.2 kΩ
SUB WOOFER：
出力：2 V
出力インピーダンス：1 kΩ

イコライザー　ゲインレベル：±10 dB、1 dBステップ

ビデオ部

入力/出力

VIDEO：　1 Vp-p、75Ω

S VIDEO：　ルミナンス（Y）
1 Vp-p、75 Ω
クロマ（C）
0.286 Vp-p、75 Ω

COMPONENT VIDEO：
ルミナンス（Y）
1 Vp-p、75 Ω
P_B/C_B/B-Y P_R/C_R/R-Y
0.7 Vp-p、75 Ω
80 MHz HD Pass Through

電源、その他

回路方式　プリアンプ部：
ローノイズNFタイプイコライザー
パワーアンプ部：
純コンプリメンタリー SEPP

電源　AC100 V、50/60 Hz

消費電力　195 W
スタンバイ時：0.3 W

最大外形寸法　430 × 160.5 × 397 mm
（幅/高さ/奥行き）

質量　約 13.5 kg

付属品　電源コード（1）
電源プラグ変換
アダプター（3極→2極）（1）
接続ガイド（1）
リモートコマンダー RM-AAP002（1）
単3形乾電池（NS）（2）
ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内（1）
保証書（1）

本機は「JIS C 61000-3-2適合品」です。

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

各部の名前と参照ページ

このページの使いかた

本書で説明しているボタンなどの場所が分からないときに、このページで見つけることができます。

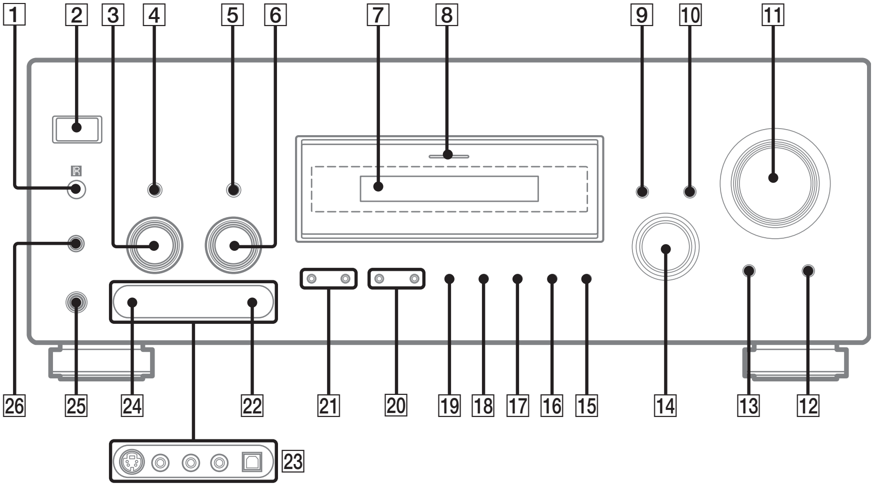
イラストの番号 ↓ DISPLAY [9]（24） ↑ボタンなどの名前 ↑参照ページ

五十音順

記号

アルファベット/数字順

本体前面



フタのはずしかた



PUSHを押して取りはずします。
はずしたフタは、お子様の手の届かない
ところに保管してください。

索引

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

● http://www.sony.co.jp/SonyDrive/

お客様ご相談センター

● ナビダイヤル …………0570-00-3311

（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）

● 携帯電話・PHSでのご利用は…03-5448-3311

（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）

● FAX ……………………… 0466-31-2595

受付時間 ：月～金 9:00～20:00　土・日・祝日 9:00～17:00

お電話は自動音声応答にてお受けしています。

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川 6-7-35

Printed in Malaysia